

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2007-117296

(P2007-117296A)

(43) 公開日 平成19年5月17日(2007.5.17)

(51) Int. Cl.

A63F 5/04 (2006.01)

F I

A63F 5/04 511A

A63F 5/04 512V

A63F 5/04 512C

テーマコード (参考)

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 52 頁)

(21) 出願番号 特願2005-311829 (P2005-311829)

(22) 出願日 平成17年10月26日 (2005.10.26)

(71) 出願人 000144522

株式会社三洋物産

愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号

(74) 代理人 100121821

弁理士 山田 強

(72) 発明者 押見 渉

愛知県名古屋市千種区今池3丁目9番21号 株式会社サンスリー内

(54) 【発明の名称】 遊技機

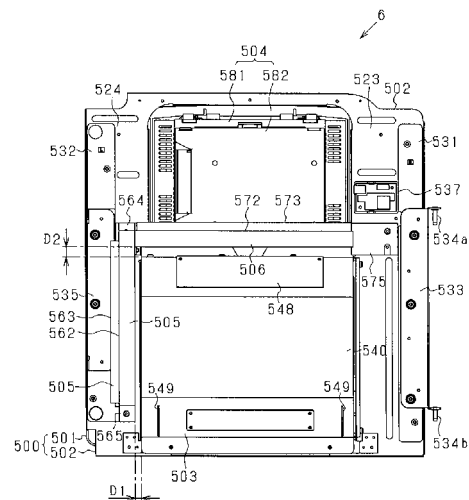
(57) 【要約】

【課題】交換ユニットを構成する装置類を好適に配置した遊技機を提供する。

【解決手段】遊技機において、パネル体500にリール装置503、液晶表示装置504、主制御装置505及び表示制御装置506が搭載されて面替えブロック6が構成されている。面替えブロック6を交換することで機種変更が可能となる。また面替えブロック6といった1ユニットとすることで、その交換作業が容易となる。面替えブロック6において、リール装置503の側方に主制御装置505がリール装置503と接触しないように配置されると共に、リール装置503の上方に表示制御装置506がリール装置503と接触しないように配置される。これにより、主制御装置505及び表示制御装置506をリール装置503の振動から保護することができる。

【選択図】 図45

Fig.45



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

遊技機前面を覆い、手前側へ回動可能な扉体と、
略円環状をなし、その外周面に複数種の絵柄が付された複数のリール及び同リールを周方向に回転駆動させる駆動手段をケース部材に収容してなるリール装置と、
遊技を統括制御する制御装置と、
遊技の補助演出を表示する表示装置と、
前記表示装置を制御する表示制御装置と、
前記扉体に設けられ、前記リールの絵柄を透視可能とする透視窓と、
遊技媒体としての遊技球を貯留する貯留部と、
遊技球を前記貯留部から取り込む取込手段と、
前記取込手段によって遊技球を取り込ませるべく操作される取込操作手段と、
前記各リールの回転を開始させるべく操作される始動操作手段と、
前記各リールの回転を停止させるべく操作される停止操作手段と
を備え、

10

予め定めた数の遊技球が取り込まれて前記始動操作手段が操作されると、前記リールの回転が開始し、前記停止操作手段の操作又は所定時間の経過によって前記リールの回転が停止し、前記第 1 透視窓から透視できる予め定めた有効位置に前記絵柄によって形成される特定絵柄または特定絵柄の組合せが成立した場合には遊技者に特典を付与するようにした遊技機において、

20

前記リール装置及び前記表示装置を備えたパネル体に、前記透視窓を介して前記リールの所定数の絵柄を透視可能とする開口部を形成し、

前記パネル体を前記扉体の背面側に設け、

前記パネル体に、前記リール装置と前記表示装置に加え前記制御装置と前記表示制御装置とを組み付けて交換ユニットを構成し、その交換ユニットを前記扉体に対して着脱自在とし、

さらに、前記交換ユニットでは、前記制御装置及び前記表示制御装置を前記リール装置と非接触に組み付けたことを特徴とする遊技機。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】**

30

【0001】

本発明は、遊技機に関するものである。

【背景技術】**【0002】**

遊技機的一种として、複数の図柄を外周面に付したリール装置を備え、遊技者による始動操作に伴いリール装置の回転（図柄の可変表示）を開始させると共に、遊技者による停止操作に伴いリール装置の回転を停止させるようにしたスロットマシン（回胴式遊技機）が知られている。スロットマシンでは、遊技媒体としてメダルを用いており、所定の有効ラインに表示されるリール装置の停止図柄が特定図柄の組合せである場合に、例えばビッグボーナスのような遊技者に有利な所定のゲーム（特別遊技状態）が発生し、メダルが遊技者に払い出される。

40

【0003】

また近年、メダルの代わりにパチンコ機で使用される遊技球を遊技媒体として上記スロットマシンに似通った遊技を行うことのできる球使用回胴式遊技機が考えられている（例えば、特許文献 1 参照）。かかる遊技機をスロットマシンに代えて使用すれば、パチンコホール等の遊技ホールにおいて遊技球をパチンコ機と共通の遊技媒体として取り扱うことができると共に、スロットマシンの遊技性を維持することができる。またこの場合、パチンコ機とスロットマシンとが混在している現在の遊技ホールにおいて多く見られる、メダルと遊技球との別個の取扱による設備上の負担や遊技機設置場所の制約といった問題を解消し得るし、パチンコ機の島にこの遊技機を設置したりする等の柔軟性が生じる利点があ

50

る。

【特許文献１】特開２００１－１１２９２２号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【０００４】

ところで、パチンコ機やスロットマシンでは、機種間で異なる仕様となる部材や装置など（以下、装置類と称する。）を交換ユニットとし、部分交換を可能としたものが知られている。これにより、例えば遊技ホールにおける機種変更の場合に、前記交換ユニットを交換することで機種変更が可能となり、機種間で交換が不要な装置類をリユースすることができる。

10

【０００５】

そこで、本発明者は、上記球使用回胴式遊技機において、上述したスロットマシンのように、機種間で異なる装置類を交換可能とし、リユースを可能とする構成を想起した。この場合、遊技を統括制御する制御装置及びリール装置が設けられた交換ユニットが扉体に設けられる。これにより、リユースが可能な球使用回胴式遊技機を提供することが可能となる。

【０００６】

また、遊技の進行に伴って補助演出をする表示装置（例えば、液晶表示装置）及びこの表示装置を表示制御する表示制御装置を有する球使用回胴式遊技機では、表示装置及び表示制御装置もまた、機種間で仕様が異なるものとなる。したがって、リール装置及び制御装置に加えて、表示装置及び表示制御装置も交換ユニットを構成する装置となる。このように交換ユニットを構成する装置類が多くなると、それらを好適に配置した交換ユニットが望まれる。

20

【０００７】

故に、本発明は、交換ユニットを構成する装置類を好適に配置した遊技機を提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【０００８】

以下、上記課題を解決するのに有効な手段等につき、必要に応じて効果等を示しつつ説明する。なお以下においては、理解の容易のため、発明の実施の形態において対応する構成を括弧書き等で適宜示すが、この括弧書き等で示した具体的構成に限定されるものではない。

30

【０００９】

手段１．遊技機前面を覆い、手前側へ回動可能な扉体（ドアブロック４）と、略円環状をなし、その外周面に複数種の絵柄が付された複数のリール（リール５４１～５４３）及び同リールを周方向に回転駆動させる駆動手段（ステッピングモータ）をケース部材（ケース部材５４０）に収容してなるリール装置（リール装置５０３）と、遊技を統括制御する制御装置（主制御装置５０５）と、遊技の補助演出を表示する表示装置（液晶表示装置５０４）と、前記表示装置を制御する表示制御装置（表示制御装置５０６）と、前記扉体に設けられ、前記リールの絵柄を透視可能とする透視窓（透明パネル２２）と

40

、遊技媒体としての遊技球を貯留する貯留部（上皿１５１、下皿７１）と、遊技球を前記貯留部から取り込む取込手段（取込ユニット１５３）と、前記取込手段によって遊技球を取り込ませるべく操作される取込操作手段（ベットスイッチ３８）と、

前記各リールの回転を開始させるべく操作される始動操作手段（スタートレバー３３）と、

前記各リールの回転を停止させるべく操作される停止操作手段（ストップスイッチ３５～３７）と

50

を備え、

予め定めた数の遊技球が取り込まれて前記始動操作手段が操作されると、前記リールの回転が開始し、前記停止操作手段の操作又は所定時間の経過によって前記リールの回転が停止し、前記第1透視窓から透視できる予め定めた有効位置に前記絵柄によって形成される特定絵柄または特定絵柄の組合せが成立した場合には遊技者に特典を付与（遊技球の払出等）するようにした遊技機において、

前記リール装置及び前記表示装置を備えたパネル体（パネル体500）に、前記透視窓を介して前記リールの所定数の絵柄を透視可能とする開口部（下側表示窓514、下側開口部522）を形成し、

前記パネル体を前記扉体の背面側に設け、

10

前記パネル体に、前記リール装置と前記表示装置に加え前記制御装置と前記表示制御装置とを組み付けて交換ユニット（面替えブロック6）を構成し、その交換ユニットを前記扉体に対して着脱自在とし、

さらに、前記交換ユニットでは、前記制御装置及び前記表示制御装置を前記リール装置と非接触に組み付けたことを特徴とする遊技機。

【0010】

手段1の遊技機では、取込操作手段が操作されると貯留部に貯留されている遊技球が予め定められた数だけ取り込まれる。遊技球が取り込まれて始動操作手段が操作されるとリールの回転が開始され、停止操作手段の操作又は所定時間の経過によってリールの回転が停止される。そして、リール停止後、透視窓から透視できる予め定めた有効位置にリールの絵柄によって形成された特定絵柄又は特定絵柄の組合せが成立した場合には遊技者に特典が付与される。

20

【0011】

上記遊技機において、扉体の背面側には、リール装置及び表示装置を備えたパネル体が設けられている。さらにこのパネル体には制御装置及び表示制御装置も設けられ、先のリール装置、表示装置とともに交換ユニットが構成されている。交換ユニットを構成する前記各装置は、機種間で異なる仕様となっているため、交換ユニットを構成することで、交換が必要な装置をまとめて交換することができる。したがって、機種入替等における交換の作業性が向上する。

【0012】

30

交換ユニットにおいて、制御装置及び表示制御装置は、リール装置と非接触にパネル体に組み付けられている。リール装置は、ケース部材に収容されたリールが駆動手段の駆動によって周方向に回転する。したがって、このリールの回転や駆動手段の駆動によってリール装置は振動する。これにより、仮に制御装置及び表示制御装置をリール装置のケース部材に接触させた構成であれば、その振動によって制御装置や表示制御装置に不具合が生じるおそれがある。また、この振動から制御装置や表示制御装置を保護するために、緩衝部材を設ける構成が考えられる。ところが、この場合、交換ユニットを構成するためのコストがアップするといった問題が生じる。この点、本構成であれば、制御装置及び表示制御装置はリール装置と接触することなくパネル体に設けられるため、他の部材（例えば緩衝材）を用いることなくリール装置の振動から保護することができる。

40

【0013】

以上により、本構成は、交換が必要な装置類をパネル体に好適に配置した交換ユニットを構成するものであるといえる。

【0014】

手段2・手段1において、前記リール装置を取り付けるための取付部材（上側リール支持部材525、下側リール支持部材526）を前記パネル体に設け、その取付部材を介して前記リール装置を前記パネル体に設けたことを特徴とする遊技機。

【0015】

手段2によれば、パネル体には、リール装置を取り付けるための取付部材が設けられている。そして、この取付部材を介してリール装置がパネル体に設けられている。これによ

50

り、リール装置がパネル体に直接取り付けられる場合と比して、リール装置の振動が制御装置及び表示制御装置に及ぼす影響は少なくなる。この結果、制御装置及び表示制御装置をリール装置の振動から一層保護することができる。

【 0 0 1 6 】

なお、制御装置及び表示制御装置を、リール装置に加えて取付部材とも非接触でパネル体に設ければ、上記手段 2 の効果はより確実となる。

【 0 0 1 7 】

手段 3 . 手段 1 又は手段 2 において、前記パネル体に前記開口部を設けることより同パネル体に右枠部（右枠部 5 2 3 ）と左枠部（左枠部 5 2 4 ）とが形成され、

前記右枠部と前記左枠部との何れか一方にこのパネル体を含む前記交換ユニットを前記扉体に対して回動可能に支持する支軸部材（支持金具 5 3 3 と支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b ）を設けると共に、他方に前記交換ユニットの背面から少なくとも前記リール装置を覆うカバー部材（裏カバー部材 6 0 1 ）を閉状態に固定する固定部材（金具板 5 3 5 と鉤部 5 3 6 a , 5 3 6 b ）を設け、

さらに、前記右枠部及び前記左枠部の両枠部、或いは何れか一方の枠部を利用して前記制御装置及び前記表示制御装置を設けたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 1 8 】

手段 3 によれば、パネル体には、同パネル体に開口部を設けることによって右枠部及び左枠部が形成されている。これら右枠部と左枠部との何れか一方にパネル体を含む交換ユニットを扉体に対して回動可能に支持する支軸部材が設けられ、他方には交換ユニットの背面から少なくともリール装置を覆うカバー部材を閉状態に固定する固定手段が設けられている。通常時では、リール装置はカバー部材に覆われているため、ゴミ等によってリール装置に不具合が生じることを防ぐことができる。

【 0 0 1 9 】

上述のように、パネル体の右枠部や左枠部には支軸部材や固定部材が設けられている。このため、右枠部及び左枠部には強度が要求され、故に右枠部及び左枠部の剛性は高められている。この右枠部及び左枠部を利用して制御装置及び表示制御装置が設けられているため、制御装置及び表示制御装置はリール装置の振動による影響を受けにくい。この結果、制御装置及び表示制御装置をリール装置と非接触に設けた構成と相まって、振動から制御装置及び表示制御装置を一層保護することができる。なお、右枠部及び左枠部を利用して制御装置及び表示制御装置を設ける形態として、右枠部及び左枠部に直接設ける形態や、右枠部及び左枠部に他部材を設け、その他部材に設ける形態が挙げられる。

【 0 0 2 0 】

手段 4 . 手段 1 乃至手段 3 のいずれかにおいて、前記制御装置は、收容部材（ケース台 5 6 2 とケースカバー 5 6 3 ）に制御基板（主制御装置 5 6 1 ）を收容して構成され、前記表示制御装置は、表示用收容部材（ケース台 5 7 2 とケースカバー 5 7 3 ）に表示制御基板（表示制御基板 5 7 1 ）を收容して構成され、

前記制御基板の基板面（実装面 5 6 1 a ）及び前記表示制御基板の基板面（実装面 5 7 1 a ）が前記パネル体の背面とほぼ垂直となるように、前記制御装置及び前記表示制御装置を前記パネル体に設けたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 2 1 】

手段 4 によれば、制御基板が收容部材に收容されて制御装置が構成されている。また、表示制御基板が表示用收容部材に收容されて表示制御装置が構成されている。そして、制御基板の基板面、表示制御基板の基板面がそれぞれパネル体の背面とほぼ垂直となるようにして、制御装置及び表示制御装置がパネル体に設けられている。これにより、制御装置及び表示制御装置をコンパクトにパネル体に設けることができ、交換ユニットをコンパクトにすることができる。

【 0 0 2 2 】

手段 5 . 手段 4 において、前記收容部材を略透明部材で構成し、

前記制御装置を、前記リール装置よりも前記扉体の開放先端側の位置、且つ前記制御基

10

20

30

40

50

板の基板面が前記開放先端側を向くようにして設けたことを特徴とする遊技機。

【0023】

手段5によれば、略透明部材によって構成された収容部材に制御基板が収容されてなる制御装置が、リール装置よりも扉体の開放先端側の位置であり、且つ制御基板の基板面が開放先端側を向くようにしてパネル体に設けられている。制御装置は、遊技を統括制御するための装置であるため、不正の対象となり易い。したがって、上述のように制御装置を配置することで、扉体を開放した場合、制御装置が手前側に位置すると共に、制御基板の基板面が手前側に位置する。この結果、制御装置（制御基板）に対する不正確認を容易に行うことができる。

【0024】

手段6・手段4又は手段5において、前記制御基板及び前記収容部材を横長状に形成し、その長辺側を、前記パネル体の取付側としたことを特徴とする遊技機。

【0025】

手段6によれば、制御装置は横長状をなしており、その長辺側がパネル体への取付側となっている。仮に、制御装置の短辺部がパネル体への取付側となる構成であれば、制御装置の後端部がリール装置の背面よりも後方に位置する場合がある。この場合、交換ユニットの奥行き方向の寸法が大きくなり、この交換ユニットが設けられた遊技機を遊技ホールの島設備に設置する場合、その設置が困難となる、或いは島設備と干渉してしまうといった問題が生じるおそれがある。この点、本構成では、制御装置の長辺側がパネル体への取付側となるため、上記問題を解消することができる。

【0026】

手段7・手段4乃至手段6のいずれかにおいて、前記表示用収容部材を略透明部材で構成し、

前記表示制御装置を、前記リール装置の上方の位置、且つ前記表示制御基板の基板面が上方を向くようにして設けたことを特徴とする遊技機。

【0027】

手段7によれば、略透明部材によって構成された表示用収容部材に表示制御基板が収容されてなる表示制御装置が、リール装置よりも上方の位置、且つ表示制御基板の基板面が上方を向くようにしてパネル体に設けられている。これにより、表示制御装置がリール装置の影に隠れて表示制御基板の視認性が損なわれることを防ぐことができる。故に、表示制御装置の不正確認や、表示制御基板における破損、故障などの確認を容易に行うことができる。

【0028】

手段8・手段4乃至手段7のいずれかにおいて、前記表示制御基板及び前記表示用収容部材を横長状に形成し、

その長辺側を、前記パネル体の取付側としたことを特徴とする遊技機。

【0029】

手段8によれば、表示制御装置は横長状をなしており、その長辺側がパネル体への取付側となっている。仮に、表示制御装置の短辺側がパネル体への取付側となる構成であれば、表示制御装置の後端部がリール装置の背面よりも後方に位置する場合がある。この場合、交換ユニットの奥行き方向の寸法が大きくなり、この交換ユニットが設けられた遊技機を遊技ホールの島設備に設置する場合、その設置が困難となる、或いは島設備と干渉してしまうといった問題が生じるおそれがある。この点、本構成では、表示制御装置の長辺側がパネル体への取付側となるため、上記問題を解消することができる。

【0030】

手段9・手段2乃至手段8において、前記リール装置の上方に前記表示装置を配置し、前記表示制御装置を、前記リール装置と前記表示装置との間に設けたことを特徴とする遊技機。

【0031】

10

20

30

40

50

手段 9 によれば、パネル体において、リール装置の上方に表示装置が配置され、そのリール装置と表示装置との間に表示制御装置が配置される。これにより、表示制御装置と表示装置とが近い位置関係となり、両装置を電氣的接続する配線を簡易なものにすることができる。また、表示制御装置が表示装置の制御に加えてリール装置の駆動手段を駆動制御する構成であれば、リール装置とも近い位置関係であるため、その配線も簡易なものにすることができる。

【 0 0 3 2 】

手段 1 0 . 手段 2 乃至手段 9 のいずれかにおいて、前記制御装置は、前記リール装置の側方、且つその近傍に配置され、前記駆動手段を駆動制御することを特徴とする遊技機。

【 0 0 3 3 】

手段 1 0 によれば、制御装置は、リール装置の側方（扉体の開放先端側の側方）、且つその近傍に配置され、駆動手段を駆動制御する。これにより、制御装置とリール装置とは近い位置関係であるため、両装置を電氣的接続する配線を簡易なものにすることができる。

【 0 0 3 4 】

手段 1 1 . 手段 1 乃至手段 1 0 のいずれかにおいて、前記パネル体に、前記透視窓を介して前記表示装置の表示領域を透視可能とする表示用開口部（上側表示窓 5 1 3、上側開口部 5 2 1）を形成し、

前記開口部及び前記表示用開口部の周辺領域には遊技者に対する情報または絵や模様等の装飾が施され、当該領域を前記透視窓を介して遊技者に透視可能としたことを特徴とする遊技機。

【 0 0 3 5 】

手段 1 1 によれば、パネル体の前面における開口部及び表示用開口部の周辺領域に、遊技者に対する情報または絵や模様等の装飾が施されているので、交換ユニットの交換によってこれらもまとめて変更することができる。なお、透視窓から開口部及び表示用開口部を透視可能とする構成を変更し、開口部を介してリールの絵柄を透視可能とする第 1 透視窓と、表示用開口部を介して表示装置の表示領域を透視可能とする第 2 透視窓とを設ける構成であっても良い。そして、第 1 透視窓、第 2 透視窓の少なくとも何れか一方から装飾領域が透視可能であれば良い。

【 発明を実施するための最良の形態 】

【 0 0 3 6 】

以下に、遊技球を遊技媒体として用いて遊技を行う、遊技球使用回胴遊技機に関する一実施の形態につき図面に基づいて説明する。

【 0 0 3 7 】

本実施の形態における遊技機は、遊技に際して所定数の遊技媒体（遊技価値）としての遊技球（例えばパチンコ機と同様の遊技球：パチンコ球）の取込を必要とし、所定条件が成立した場合には複数の遊技球、場合によっては大量の遊技球が払い出されるよう構成されている。本遊技機には、遊技ホール等においてパチンコ機と共通の遊技球供給システムから遊技球の供給がなされるようになっており、パチンコ機が設置される既存の島設備（パチンコ島）に本遊技機を設置することが可能となっている。

【 0 0 3 8 】

まず、遊技機 1 の外観構成及び内部構造の概略を説明する。ここで、図 1 は遊技機 1 の全体を示す斜視図、図 2 は遊技機 1 の正面図、図 3 及び図 4 は遊技機 1 の内部開放状態を示す斜視図、図 5 は遊技機 1 の背面図である。なお以下の説明においては、特に注記しない限りは、遊技機 1 の正面から見た状態を基準として左右上下などの方向を記載することとする。

【 0 0 3 9 】

遊技機 1 は、本体枠としての外枠 2 と、この外枠 2 に対して前方に回動可能に取り付けられた遊技機本体部 3 とを有する。外枠 2 は木製の板材を四辺に連結し構成されるものであって、全体として矩形状をなしている。本遊技機 1 を遊技ホールに設置する際には、外

10

20

30

40

50

枠 2 が島設備に取り付け固定される。外枠 2 を合成樹脂やアルミニウム等の金属によって構成することも可能である。図 3 等では隠れて図示されていないが、外枠 2 を構成する四辺の板材のうち右辺の板材には、その内側上下 2 カ所に、後述するドアブロック 4 に設けた施錠部材（詳しくは鉤金具 1 2 3 , 1 2 4 ）を係止するための鉤受け部が設けられている。

【 0 0 4 0 】

遊技機本体部 3 は、扉体ユニットであるドアブロック 4 と、球受皿ユニットである受皿ブロック 5 と、絵柄表示ユニットである面替えブロック 6 と、遊技球の払出ユニットである払出ブロック 7 とから構成されている。ドアブロック 4 には上下 2 カ所にヒンジ金具 8 が設けられており、このヒンジ金具 8 と外枠 2 側の上下 2 カ所の支持金具 9 とにより、ドアブロック 4（遊技機本体部 3）が外枠 2 に対して回動可能に支持されている。この場合、遊技機 1 を正面から見て左側に回動軸線が設けられる構成となっており、遊技機本体部 3 は正面から見て右側を回動先端部として開放される。外枠 2 に対して遊技機本体部 3 が閉じた状態では、ドアブロック 4 の外周縁部の背面が外枠 2 の前面に当接するようになっている。

10

【 0 0 4 1 】

受皿ブロック 5 はドアブロック 4 の背面側に着脱可能に取り付けられている。また、面替えブロック 6 はドアブロック 4 の背面側において受皿ブロック 5 の上方に取り付けられ、更に面替えブロック 6 を背面側から覆うようにして払出ブロック 7 が取り付けられている。これら面替えブロック 6 と払出ブロック 7 はドアブロック 4 の一部にそれぞれ回動可能に支持されており、これら各ブロック 6 , 7 は、外枠 2 に対してドアブロック 4 と一体で回動可能となるとともに、ドアブロック 4 に対して各々個別に回動可能となる構造を有する。

20

【 0 0 4 2 】

遊技機本体部 3 を背面側から見て、ドアブロック 4 の背面には払出ブロック 7 と受皿ブロック 5 とが上下に並ぶようにして配設されている。

【 0 0 4 3 】

ここで、遊技機本体部 3 を構成する上記の各部材について相対的な位置関係と動作状態を簡単に説明する。図 6 は遊技機本体部 3 を模式的に示す図面であり、（ a ）は遊技機本体部 3 を背面側から見た図、（ b ）～（ d ）はドアブロック 4 に対する面替えブロック 6 と払出ブロック 7 の開放動作状況を示す図である。

30

【 0 0 4 4 】

（ a ）に示すように、ドアブロック 4 に対して面替えブロック 6 や払出ブロック 7 を開放動作させるための軸線 A X 1 は図の右側（正面から見ると左側）に設けられている。この軸線 A X 1 は、面替えブロック 6 を支持するための軸線と払出ブロック 7 を支持するための軸線とを兼ねるものとなっている。この場合、図示の M 1 , M 2 は面替えブロック 6 を支持するための支持手段であり、M 3 , M 4 は払出ブロック 7 を支持するための支持手段である。つまり、面替えブロック 6 用の支持手段 M 1 , M 2 は同軸で上下一対に設けられている。また、払出ブロック 7 用の支持手段 M 3 , M 4 は、前記支持手段 M 1 , M 2 を挟むようにしてやはり同軸で上下一対に設けられており、更に支持手段 M 1 , M 2 に対しても同軸となっている。

40

【 0 0 4 5 】

上記構成により、（ b ）～（ d ）の各動作が可能となっている。（ b ）では、ドアブロック 4 に対して面替えブロック 6 と払出ブロック 7 とを一体的に開放動作させており、（ c ）では、（ b ）の状態から面替えブロック 6 に対して払出ブロック 7 を開放動作させている。また、（ d ）では、ドアブロック 4 に対して面替えブロック 6 を閉じた状態から、払出ブロック 7 だけを開放動作させている。

【 0 0 4 6 】

（ドアブロック 4 の説明）

次に、ドアブロック 4 を図 7 等を用いて詳細に説明する。ここで、図 7 , 図 8 は、ドア

50

ブロック 4 と受皿ブロック 5 とを分離してそれらを前方から及び後方から示す斜視図である。また、図 9、図 10 は、ドアブロック 4 を構成する前扉体 11 と内枠 12 とを分離してそれらを前方から及び後方から示す斜視図である。なお以下のドアブロック 4 の説明では、図 7 ~ 図 10 以外にも、前述の図 1 や図 2 等を適宜用いることとする。

【0047】

ドアブロック 4 において、前扉体 11 は、前記外枠 2 とほぼ同等の大きさ（縦寸法及び横寸法）を有し、その背面側に重なるようにして内枠 12 が取り付けられている。内枠 12 は、例えばアルミダイキャストにて成形されており、前扉体 11 を補強する役目を有する他、後に詳述する面替えブロック 6 や払出ブロック 7 を支持する役目を有するものである。

10

【0048】

（前扉体 11 の説明）

前扉体 11 は、後述するリール図柄や液晶図柄等を視認可能とする図柄視認部、遊技に際し遊技者により手動操作される操作部、上皿部で余剰となった遊技球などを貯留するための下皿部を備える。

【0049】

すなわち、図 9 等を示すように、前扉体 11 の上半部には、図柄視認部として略台形状をなす視認窓 21 が形成されている。この視認窓 21 には、平坦な透明板よりなる透明パネル 22 がはめ込まれており、この透明パネル 22 を介してその内方が視認可能となっている。透明パネル 22 は、上下に分割され僅かに折り曲げ形成された二つのパネル部（上パネル部 22a、下パネル部 22b）を有するものであり、第 1 透視窓としての上パネル部 22a はほぼ鉛直方向に設けられ、第 2 透視窓としての下パネル部 22b は若干上方を向くようにして設けられている。上パネル部 22a は、後述する液晶表示装置の前面を覆うものであり、この上パネル部 22a を介して液晶表示装置の表示画像が視認される。また、下パネル部 22b は、後述するリール装置の前面を覆うものであり、この下パネル部 22b を介してリール装置の図柄が視認される。

20

【0050】

こうした比較的大型に構成される視認窓 21（透明パネル 22）によれば、大型の液晶表示装置を用いた画像の表示演出によって遊技者に多大なインパクトを与えることが可能になることに加え、本遊技機 1 の主表示装置たるリール装置の図柄の視認性が良好なものとなっている。

30

【0051】

前扉体 11 の周縁部には、視認窓 21 を囲むようにして透明パネル 22 よりも前方に張り出した囲い部 23 が設けられている。この囲い部 23 には、中央ランプ部 24 と左右一対の側方ランプ部 25 とが設けられるとともに、前扉体 11 の右上隅部及び左上隅部にスピーカ部 26 が設けられている。遊技に際しては、これらランプ部 24、25 やスピーカ部 26 により、その都度の遊技状況に応じたランプ演出や音声演出等が行われる。すなわち、ランプ部 24、25 による発光色や発光パターンを適宜変更したり、スピーカ部 26 による音声パターンを適宜変更したりすることで、役の成立等が遊技者に告知される。また、このランプ部 24、25 やスピーカ部 26 を用いて、エラー告知等を行うことも可能である。

40

【0052】

ちなみに、前記視認窓 21 は、前扉体 11 の左右幅に対して囲い部 23（左右の側方ランプ部 25）を除く範囲で設けられており、故に視認窓 21 は左右に幅広いものとなっている。また言い加えると、視認窓 21 は、後述するリール装置や液晶装置の横幅よりも幅広となっている。

【0053】

視認窓 21 の下方には、遊技者により操作される各種操作部材等を配備した操作部 30 が設けられている。この操作部 30 は、全体として横長状をなしかつ僅かに弧状をなす前面板部 31 を有し、その前面板部 31 には、スタートレバー 33 が設けられるとともに、

50

3連ボタンからなるストップスイッチ35, 36, 37が設けられている。また、前面板部31の上端部には、向かって左寄りの位置(概ねスタートレバー33と左側のストップスイッチ35との間)にベットスイッチ取付板部32が形成されており、その取付板部32にボタン状のベットスイッチ38が取り付けられている。

【0054】

ベットスイッチ38は、遊技者によるベット(賭数)の設定を行わせるものであり、その押し操作により上皿151に貯留された遊技球が所定個数分取り込まれる。本実施の形態では、ベットスイッチ38として、いわゆるMAXベットスイッチを設けており、有効な1回の押し操作により3ベット相当(15個分)の遊技球が取り込まれる。ベットスイッチ38は、投資価値としての遊技球の投入を指令する投入指令手段を構成する。なお、MAXベットスイッチとしてのベットスイッチ38の他に、1ベットスイッチや2ベットスイッチを設ける構成であっても良い。ちなみに、1ベットスイッチは、1回の押し操作により1ベット相当(5個分)の遊技球を取り込ませるためのベットスイッチであり、2ベットスイッチは、1回の押し操作により2ベット相当(10個分)の遊技球を取り込ませるためのベットスイッチである。

10

【0055】

スタートレバー33は、後述するリール装置の各リール(回転体)を回転開始させるための操作部材であり、各リールを回転開始、すなわち図柄の可変表示を開始させるべく操作される始動操作手段を構成する。

【0056】

ストップスイッチ35~37は、停止対象となるリール(左、中、右の三列のリール)に対応するよう設けられており、回転中の各リールを個別に停止させるために操作される停止操作手段を構成する。各ストップスイッチ35~37は、各リールが定速回転となると停止させることが可能な状態となり、かかる状態中には図示しないランプが点灯表示されることによって停止操作が可能であることが報知され、各リールの回転が停止すると消灯されるようになっている。

20

【0057】

操作部30の後方には、前記前面板部31とほぼ同じ長さを有し上方に開口した横長状の開口部41が形成されている。この開口部41は、前扉体11に受皿ブロック5を装着した場合に上皿151を配するための開口領域であり、開口部41の左右方向の幅寸法は上皿151の左右方向の幅寸法に概ね合致し、同開口部41の前後方向の幅寸法は上皿151の前後方向の幅寸法よりも若干短いものとなっている。

30

【0058】

操作部30の前面板部31には、正面から見て右下部に切欠部42が形成されている。この切欠部42は、後述する排出操作伝達装置180の操作レバー188を設置するための設置スペースとなっている。

【0059】

前記視認窓21(透明パネル22)と操作部30との間には、左右方向に延びる長板状のサブパネル部50が設けられており、そのサブパネル部50には情報表示部51と貸球操作部52とが設けられている。情報表示部51には、小役成立時における獲得球数を表示する獲得球数表示部53と、ビッグボーナスやレギュラーボーナス等の特別遊技状態の際に例えば残りのゲーム数等を表示するゲーム数表示部54とが設けられている。これら表示部53, 54は7セグメント表示器によって構成されているが、液晶表示器等によって代替することは当然可能である。

40

【0060】

貸球操作部52は、例えば本遊技機1の側方(例えば左方)に配置された縦長のカードユニット(球貸しユニット)に紙幣やカード等を投入した状態で、球貸し操作、カード等の返却操作及び有効度数の確認を行うものであり、球貸しボタン56と返却ボタン57と度数表示部58とが一体的に並設されている。この場合、球貸しボタン56は、カード(記録媒体)等に記録された情報に基づいて貸出球を得るために操作されるものであり、カ

50

ード等に残額が存在する限りにおいて貸出球が払い出される。返却ボタン 57 は、カードユニットに挿入されたカード等の返却を求める際に操作される。度数表示部 58 はカード等の残額情報を表示するものである。

【0061】

前扉体 11 において、情報表示部 51 や貸球操作部 52 の左右の側方部には、その上方の囲い部 23 に比して奥側に後退するようにして弧状の凹み部 61 が設けられており、その凹み部 61 には、外枠 2 に対する遊技機本体部 3 (ドアブロック 4) の施錠及び解錠を行うための施錠部材 (詳細には、後述する内枠 12 に設けたキーシリンダ 125) を前方に露出させるためのキーシリンダ設置穴 62 が設置されている。

【0062】

図 1 等で確認できるとおり左右の凹み部 61 は上皿 151 の直ぐ上方に位置する。そのため、仮に遊技ホールにおいて球貸しユニットから延びる球貸しノズル (いわゆる象の鼻) を介して上皿 151 に遊技球が貸し出されるような場合にも、その球貸しノズルと前扉体 11 との干渉を回避することができる。故に、遊技ホールでの設置状況を考えても有益な構成となっている。

【0063】

更に、前扉体 11 において、操作部 30 の下方には、前記囲い部 23 及び凹部 61 に連続するようにして膨出部 70 が形成されており、その膨出部 70 に囲まれるようにして下皿 71 と灰皿 72 が形成されている。膨出部 70 に囲まれた奥壁部 73 には下皿排出口 74 とスピーカ穴 75 とが形成されている。上皿 151 やその上流通路に遊技球が満タンに貯留されている状態であって更に払出装から遊技球が払い出される場合、或いは、上皿 151 内に貯留されている遊技球に対して球抜き操作が行われる場合には、下皿排出口 74 を介して下皿 71 に遊技球が排出される。

【0064】

下皿 71 の底部には開口が形成されており、その開口には開閉板 76 が設けられている。また、膨出部 70 の略中央部には下皿用の球抜き操作片 77 が設けられている。球抜き操作片 77 は、下皿 71 に貯留している遊技球を下皿 71 の下方に置かれた球収容箱 (いわゆるドル箱) に排出するための操作片であり、図示する通常位置から左方に操作されることで前記開閉板 76 が開位置にスライド移動し、下皿 71 内の遊技球の排出が行われる。その他、膨出部 70 において下皿 71 の左右両側方には下皿ランプ部 78 が設けられて

【0065】

図 10 に示すように、前扉体 11 の背面側の構成として、前記視認窓 21 の左右両側には前記側方ランプ部 25 を収容するランプ収容部 91 が設けられている。このランプ収容部 91 は略角柱状をなしており、その内側面には、前記透明パネル 22 を後方より支持するためのパネル支持板材 92 が取り付けられている。

【0066】

関連して、ここで透明パネル 22 の取付の手順を説明する。視認窓 21 の下縁部にはパネル厚み分の幅でパネル受溝 93 が形成されており、前扉体 11 の後方から透明パネル 22 は、その下端部がパネル受溝 93 にはめ込まれるとともに、同上端部が前扉体 11 の背面部に当接される。そしてその状態で、左右のパネル支持板 92 がビス等により取り付けられる。これにより、透明パネル 22 の前扉体 11 への取付が完了する。

【0067】

前扉体 11 の背面側において、視認窓 21 (透明パネル 22) の下方には、前記開口部 41 の奥側縁部から後方に向けて突出するようにして突出板 98 が設けられている。

【0068】

(内枠 12 の説明)

図 9 や図 10 に示すように、内枠 12 は、前扉体 11 と相似形をなす矩形状をなしており、概ね等しい細幅の左枠部 101、右枠部 102 及び上枠部 103 と、それらよりも広幅の下枠部 104 とを有する。これら各枠部 101~104 に囲まれる部位が中央開口部

10

20

30

40

50

105 となっており、内枠12の背面側には、下枠部104の上縁部の一部を除く範囲で中央開口部105を囲むようにして一定高さのリブ106が形成されている。また、内枠12において、外周縁部には前方に直角に折れ曲がった返し部107が形成されている。前扉体11に対して内枠12を組み付けた際には、返し部107は前扉体11の外縁部の内側に重なり、それによって前扉体11と内枠12との間に空間が形成される。そしてこの空間を利用してランプ装置等が配設されるようになっている。

【0069】

前述したように本遊技機1は、正面から見て左側に回動軸線が設けられる構成となっており、上枠部103と下枠部104には前述のヒンジ金具8が上下2カ所に取り付けられている。

10

【0070】

また、左枠部101には、リブ106の先端部から後方に延びるようにして上下一対の軸金具110、111が所定間隔を隔てて取り付けられている。この軸金具110、111は、面替えブロック6や払出ブロック7を回動可能に支持するための金具部材である。軸金具110、111は共に略コ字状をなしており、軸金具110には上下に軸受け部110a、110bが形成され、軸金具111には上下に軸受け部111a、111bが形成されている。これら軸金具110、111の各軸受け部110a、110b、111a、111bには軸孔が形成されており、軸金具110、111は全ての軸孔が何れも同一の軸線上に配置されるようリブ106に固定されている。

【0071】

20

かかる場合、軸金具110の下側の軸受け部110bと軸金具111の上側の軸受け部111aとが面替えブロック6を支持するための面替えブロック支持手段に相当し、軸金具110の上側の軸受け部110aと軸金具111の下側の軸受け部111bとが払出ブロック7を支持するための払出ブロック支持手段に相当する。

【0072】

また、右枠部102には、ドアブロック4を開放不能な施錠状態で保持するための施錠装置が設けられている。すなわち、右枠部102の背面側には上下方向に延びる基枠121が固定されており、その基枠121には、当該基枠121に対して上下方向に移動可能に組み付けられた長尺状の連動杆122が設けられている。連動杆122には鉤形状をなす上下一対の鉤金具123、124が設けられている。鉤金具123、124は、その中間部分が基枠121側に軸支されており、連動杆122が上方に移動することでその先端鉤部が下方に移動する構成となっている。

30

【0073】

基枠121には、解錠操作部たるキーシリンダ125が設けられている。このキーシリンダ125は前後方向に延びる向きで設けられており、前扉体11に内枠12を組み付けた際にはシリンダ前面（キー挿入孔の設置側）が前扉体11に設けたキーシリンダ設置穴62から露出することとなる。連動杆122を含む施錠機構と、キーシリンダ125と、キーシリンダ125に挿入されて所定方向に回動操作される操作キー（図示略）とが本遊技機1の施錠装置を構成する。なお、キーシリンダ125として、不正解錠防止機能の高いオムロック（登録商標）を用いる構成としても良い。

40

【0074】

かかる場合、キーシリンダ125に操作キーを差し込んだ状態で、当該操作キーを時計回り方向に回動操作すると、連動杆122が上方に移動する（扉背面から見るとキーシリンダ125の回転部分が反時計回り方向に回るため）。これにより、連動杆122の鉤金具123、124の先端鉤部が下方に移動し、外枠2に対してドアブロック4が閉じている場合に、鉤金具123、124と外枠2側の鉤受け部との係止状態（すなわち施錠状態）が解除される。そして、外枠2に対してドアブロック4が開放可能となる。

【0075】

下枠部104には、前記前扉体11に設けた下皿排出口74に連通する連通口131が設けられるとともに、前記スピーカ穴75から前方に露出するスピーカ132が設けられ

50

ている。その他、同下枠部 104 には、後方に突出する突起柱部 133, 134 が設けられている。

【0076】

内枠 12 の背面側には、ドアブロック 4 の背面側に取り付けられる受皿ブロック 5 や払出ブロック 7 を固定するための固定手段が複数箇所に設けられている。すなわち、受皿ブロック 5 用の固定手段として、計 5 カ所の鉤金具（鉤金具 136a, 136b, 136c, 136d, 136e）が設けられている。また、払出ブロック 7 用の固定手段として、計 4 カ所の鉤金具（鉤金具 137a, 137b, 137c, 137d）が設けられている。

【0077】

内枠 12 は、前扉体 11 に対してネジ等の締結具を用いて取付固定される。その状態を図 8 に示す。この場合、前扉体 11 の背面側に設けた突出板 98 と内枠 12 の下枠部 104 の上端部との間には、左右方向に延びる空間部が形成され、その空間部に、後述する受皿ブロック 5 の上皿 151 が組み込まれるようになっている。

【0078】

（受皿ブロック 5 の説明）

次に、受皿ブロック 5 について説明する。図 11 は受皿ブロック 5 の正面図、図 12 は受皿ブロック 5 の平面図、図 13 は受皿ブロック 5 の背面図、図 14, 図 15 は受皿ブロック 5 の分解斜視図（図 14 は前方から見た図、図 15 は後方から見た図）である。

【0079】

受皿ブロック 5 は、順次取り込まれる遊技球を一時的に貯留する機能を有する上皿 151 と、払出装置などから供給される遊技球を上皿や下皿などに流通させる機能を有する球通路形成体 152 と、遊技球の取込機能を有する取込ユニット 153 とを備えるものであり、その他、電気的な構成として電源装置 156 と払出制御装置 157 とを有してなる払出制御ユニット 155 を備えている。

【0080】

（上皿 151 の説明）

上皿 151 は、島設備の球貸し装置から貸し出された遊技球や、払出装置より払い出された遊技球を一旦貯留するための皿部材を構成するものである。図 16 は、上皿 151 とそれに付随して設けられる部材とを示す分解斜視図であり、図 17 は、上皿 151 の平面図である。

【0081】

上皿 151 は横長の樋状に成形されており、底板部 161 とその周縁部を囲む周壁部 162 とよりなる。これら底板部 161 と周壁部 162 とにより囲まれて遊技球貯留領域が形成されている。周壁部 162 のうち奥側の壁部には、正面から見て左側の位置に排出口 163 が設けられている。また、底板部 161 には、正面から見て右側の位置に開口部 164 が設けられている。

【0082】

底板部 161 は、概して排出口 163 から開口部 164 に向けて（図 17 の左側から右側に向けて）低くなる構成となっている。詳しくは、底板部 161 は前後二段に形成されており、更にそのうち後側領域が左右二段に形成されている。この場合、底板部 161 において、前側領域（図 17 の R1 領域）が最も高位となり、次に後側領域の左側（図 17 の R2 領域）が高位となり、後側領域の右側（図 17 の R3 領域）が最も低位となっている。したがって、排出口 163 から排出された遊技球は R2 領域 R1 領域 R3 領域といった経路で（又は R2 領域 R3 領域の経路で）下流側に流れる。

【0083】

なお、底板部 161 において前側領域（R1 領域）には突条案内部 165 が形成されており、当該前側領域（R1 領域）に流れ込んだ遊技球は、突条案内部 165 に当たることによって R3 領域に案内されるようになっている。

【0084】

10

20

30

40

50

上皿 1 5 1 の最下流部 (R 3 領域) には、 2 つの仕切部 1 6 7 , 1 6 8 が設けられており、この仕切部 1 6 7 , 1 6 8 に仕切られることで三列の案内通路 1 7 1 , 1 7 2 , 1 7 3 が形成されている。これら各案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 は、前記開口部 1 6 4 に通ずるように設けられており、遊技球を各一列に整列する整列通路部を構成する。

【 0 0 8 5 】

上皿 1 5 1 には、開口部 1 6 4 と各案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 の一部とを上方から覆うようにしてカバー部材 1 7 5 が取り付けられる。カバー部材 1 7 5 は、各案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 の高さ方向の寸法を概ね遊技球 1 個分に規制するための部材であり、このカバー部材 1 7 5 を上皿 1 5 1 に取り付けることにより、各案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 において遊技球が 1 つずつ取り込まれるようになる。カバー部材 1 7 5 は、その下方の遊技球の有無を視認可能にすべく透明材料にて成形されている。

10

【 0 0 8 6 】

周壁部 1 6 2 のうち手前側の壁部には凹部 1 7 6 が形成されており、その凹部 1 7 6 により、受皿ブロック 5 をドアブロック 4 に組み付けた際におけるベットスイッチ取付板部 3 2 と上皿 1 5 1 との干渉が回避されるようになっている。

【 0 0 8 7 】

また、上皿 1 5 1 の底部には、後述する取込ユニット 1 5 3 の排出ゲート部材 3 4 0 を操作して上皿 1 5 1 内の貯留球を下皿 7 1 に排出するための排出操作伝達装置 1 8 0 が取り付けられる。ここで、排出操作伝達装置 1 8 0 の構成を図 1 8 、図 1 9 を用いて説明する。

20

【 0 0 8 8 】

(排出操作伝達装置 1 8 0 の説明)

図 1 8 、図 1 9 に示すように、排出操作伝達装置 1 8 0 において、ケース体 1 8 1 には 2 つの軸部 1 8 2 , 1 8 3 が設けられており、その軸部 1 8 2 , 1 8 3 にはそれぞれ第 1 リンク片 1 8 4 と第 2 リンク片 1 8 5 が回動可能に支持されている。これら第 1 , 第 2 リンク片 1 8 4 , 1 8 5 は各々の一部分が互いに連結されており、第 1 リンク片 1 8 4 に連動して第 2 リンク片 1 8 5 が回動する。第 1 リンク片 1 8 4 には引張バネ 1 8 6 が設けられており、第 1 リンク片 1 8 4 は引張バネ 1 8 6 のバネ力により常に同方向 (図では反時計回り方向) に付勢されている。また、ケース体 1 8 1 の手前側端面には、左右方向に移動可能な操作レバー 1 8 8 が設けられており、この操作レバー 1 8 8 に一体に設けられた支柱部 1 8 8 a が第 1 リンク片 1 8 4 に設けられた孔部 1 8 4 a に挿通されている。故に、操作レバー 1 8 8 のスライド操作に伴い第 1 リンク片 1 8 4 が軸部 1 8 2 を中心に回動する。

30

【 0 0 8 9 】

上記構成の排出操作伝達装置 1 8 0 では、遊技者等により操作レバー 1 8 8 が図示の位置から左方 (図 1 9 の P 1 方向) にスライド操作されることにより、第 1 リンク片 1 8 4 が引張バネ 1 8 6 のバネ力に抗して図の時計回り方向 (図 1 9 の P 2 方向) に回動するとともに、第 2 リンク片 1 8 5 が反時計回り方向に回動 (図 1 9 の P 3 方向) する。これにより、第 2 リンク片 1 8 5 の回動先端部が後方側 (図 1 9 の P 4 方向) へと移動する。また、操作レバー 1 8 8 の操作が解除されると、引張バネ 1 8 6 のバネ力により第 1 リンク片 1 8 4 が図の反時計回り方向に回動するとともに、第 2 リンク片 1 8 5 が時計回り方向に回動する。これにより、排出操作伝達装置 1 8 0 が元の状態に復帰する。こうした排出操作伝達装置 1 8 0 の動作により、後述する取込ユニット 1 5 3 の排出ゲート部材 3 4 0 が操作され、取込ユニット 1 5 3 を介しての遊技球の排出 (実際には遊技球の下皿 7 1 への排出) が行われるようになっている。

40

【 0 0 9 0 】

(球通路形成体 1 5 2 の説明)

次に、球通路形成体 1 5 2 について説明する。図 2 0 及び図 2 1 は、球通路形成体 1 5 2 とそれに付随して設けられる部材とを示す分解斜視図である。

【 0 0 9 1 】

50

球通路形成体 1 5 2 の背面側には、遊技球を下皿 7 1 に排出するための下皿排出通路 2 0 1 と、遊技球を遊技機外部（遊技ホールの島設備）に排出するための外部排出通路 2 0 2 とが並列に形成されている。下皿排出通路 2 0 1 は、球通路形成体 1 5 2 の前面側に設けた排出口 2 0 3 に通じており、下皿排出通路 2 0 1 を流下する遊技球は、排出口 2 0 3 を介して下皿 7 1 へと排出されることとなる。また、下皿排出通路 2 0 1 と外部排出通路 2 0 2 の最上流部付近には、上皿 1 5 1 の排出口 1 6 3 に通ずる排出通路 2 0 4 が形成されている。

【0092】

球通路形成体 1 5 2 の背面側には、下皿排出通路 2 0 1 と外部排出通路 2 0 2 とを塞ぐようにして通路カバー部材 2 0 6 が取り付けられるとともに、これら各通路 2 0 1 , 2 0 2 の最上流部において、遊技球を、下皿排出通路 2 0 1 、外部排出通路 2 0 2 、排出通路 2 0 4 のいずれかに分配するための遊技球分配部材 2 1 0 が取り付けられる。この遊技球分配部材 2 1 0 には、3つの通路 2 1 1 , 2 1 2 , 2 1 3 が設けられており、遊技球分配部材 2 1 0 が球通路形成体 1 5 2 に取り付けられた状態では、通路 2 1 1 が下皿排出通路 2 0 1 に連通され、通路 2 1 2 が外部排出通路 2 0 2 に連通され、通路 2 1 3 が排出通路 2 0 4 に連通される。

10

【0093】

球通路形成体 1 5 2 において前記下皿排出通路 2 0 1 の最下流部よりも先方には、取込ユニット 1 5 3 を収容するための略正形状の開口部 2 1 5 が形成されている。その開口部 2 1 5 の下方には、遊技球が取込ユニット 1 5 3 にて取り込まれた後排出される球排出室 2 1 6 が形成されている。球排出室 2 1 6 は外部誘導通路 2 1 7 に通じており、球排出室 2 1 6 に排出された遊技球は、更に外部誘導通路 2 1 7 を介して遊技球外部（遊技ホールの島設備）に排出される。また、球排出室 2 1 6 の側方には、遊技者による排出操作（前記排出操作伝達装置 1 8 0 のレバー操作）に伴い排出される遊技球を排出口 2 0 3 に導くための排出誘導通路 2 1 8 が形成されている。

20

【0094】

球通路形成体 1 5 2 の前面側には、前記上皿 1 5 1 の底面に重なるようにして球留め装置 2 4 0 が設けられている。図 2 2 は球留め装置 2 4 0 の単体の構成を示す平面図であり、図 2 3 は球留め装置 2 4 0 を球通路形成体 1 5 2 に装着した状態を後方側から示す背面図である。なお、球留め装置 2 4 0 の動作状態として、図 2 2 の（a）と図 2 3 の（a）とが対応し、図 2 2 の（b）と図 2 3 の（b）とが対応している。

30

【0095】

球留め装置 2 4 0 は、球通路形成体 1 5 2 に固定される本体部 2 4 1 と、該本体部 2 4 1 上に載置され図 2 2 の左右方向に往復動可能な可動部 2 4 2 と、可動部 2 4 2 を左右方向に往復動させるべく回動操作される操作レバー部 2 4 3 とを有している。そして、この球留め装置 2 4 0 は、操作レバー部 2 4 3 が後側になるようにして球通路形成体 1 5 2 に組み付けられている。

【0096】

可動部 2 4 2 には、同一方向に並ぶようにして3つのアーム部 2 4 4 , 2 4 5 , 2 4 6 が形成されている。各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 はそれぞれ二股に分岐されており、その先端には上方（図 2 2 では紙面手前側）に折れ曲がるようにして起立する各2個ずつの起立部 2 4 7 , 2 4 8 , 2 4 9 が形成されている。可動部 2 4 2 に形成された各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 の間隔は、前記上皿 1 5 1 に形成した3つの案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 に合致しており、図 1 7 に示すように、各案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 に通じる開口部 1 6 4 から前記各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 の起立部 2 4 7 ~ 2 4 9 が現出するようになっている。

40

【0097】

操作レバー部 2 4 3 は、その軸部 2 5 1 が本体部 2 4 1 に支持されており、概ね 90 度の角度範囲内で回動操作可能となっている。軸部 2 5 1 には、その軸心から 90 度の角度で放射状に延びる突起片 2 5 2 a , 2 5 2 b が形成されており、その突起片 2 5 2 a , 2 5 2 b が可動部 2 4 2 に形成されたギャップ 2 5 3 内に収容されている。ギャップ 2 5 3

50

の左右方向の幅は、ほぼ軸部 2 5 1 の直径と突起片 2 5 2 a 又は 2 5 2 b の長さとを合わせた寸法となっている。この場合、図 2 3 の (a) の状態では一方の突起片 2 5 2 b の先端がギャップ 2 5 3 の内壁に当たり、操作レバー部 2 4 3 の回動操作によって図 2 3 の (b) の状態に移行すると、他方の突起片 2 5 2 a の先端がギャップ 2 5 3 の内壁に当たることとなる。これにより、可動部 2 4 2 が左右方向に移動する。図 2 2 で言えば、可動部 2 4 2 の左右方向の移動によって、可動部 2 4 2 の各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 の先端突出量が (a) , (b) で異なるものとなっている。(a) では先端突出量 = L 1 であるのに対し、(b) では先端突出量 = L 2 となっている (L 1 < L 2)。

【 0 0 9 8 】

操作レバー部 2 4 3 には、球通路形成体 1 5 2 の開口部 2 1 5 に装着された取込ユニット 1 5 3 をその装着状態で保持するためのホールド板片 2 5 4 が設けられている。このホールド板片 2 5 4 は、軸部 2 5 1 の軸心から延びる舌形状をなすものであり、操作レバー部 2 4 3 が回動操作されることにより、ホールド板片 2 5 4 が図 2 3 の (a) , (b) に示す各位置に操作されるようになっている。

【 0 0 9 9 】

ここで、操作レバー部 2 4 3 の操作位置と取込ユニット 1 5 3 との相互の関係を説明する。操作レバー部 2 4 3 が図 2 3 の (a) に示す状態にある場合、操作レバー部 2 4 3 に一体的に設けられたホールド板片 2 5 4 の回動先端部が取込ユニット 1 5 3 の背面に当たっている。これが取込ユニット保持位置 (ロック位置) である。この状態では、取込ユニット 1 5 3 が球通路形成体 1 5 2 に装着された状態で保持され、取込ユニット 1 5 3 の取り外しができないようになっている。これに対し、操作レバー部 2 4 3 が図 2 3 の (b) に示す状態に移行すると、ホールド板片 2 5 4 の回動先端部が取込ユニット 1 5 3 の背面に当たる状態が解除される。これが取込ユニット取り外し位置 (アンロック位置) である。これにより、取込ユニット 1 5 3 の取り外しが可能となっている (図 2 3 の (b) には取込ユニット 1 5 3 を取り外した状態を図示している)。

【 0 1 0 0 】

図 2 4 には、球留め装置 2 4 0 の操作状態と遊技球の流れとの関係を示す。図 2 4 において、(a) は通常の遊技状態を示しており、当該状態は前記図 2 3 の (a) や前記図 2 2 の (a) に対応している。また、(b) , (c) は取込ユニット 1 5 3 の取り外し可能状態及び取り外し後状態を示しており、当該状態は前記図 2 3 の (b) や前記図 2 2 の (b) に対応している。

【 0 1 0 1 】

図 2 4 の (a) の状態では、前記図 2 2 の (a) に示したとおり可動部 2 4 2 の各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 の先端突出量が比較的少なく、それ故に上皿 1 5 1 の案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 から供給される遊技球の流れが阻止されることはない。したがって、遊技球が次々と取込ユニット 1 5 3 側に送り込まれる。

【 0 1 0 2 】

これに対し、図 2 4 の (b) の状態では、前記図 2 2 の (b) に示したとおり可動部 2 4 2 の各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 の先端突出量が比較的大きく、それ故に上皿 1 5 1 の案内通路 1 7 1 ~ 1 7 3 から供給される遊技球の流れが各アーム部 2 4 4 ~ 2 4 6 の先端部 (起立部 2 4 7 ~ 2 4 9) で阻止される。この状態では、遊技球が取込ユニット 1 5 3 側に送り込まれることがないため、(c) に示すように、取込ユニット 1 5 3 を取り外したとしても、上皿 1 5 1 内の遊技球が落下することが防止される。

【 0 1 0 3 】

図 2 1 や図 2 2 に示すように、球通路形成体 1 5 2 の背面側には、本受皿ブロック 5 をドアブロック 4 に装着した状態で固定するための装着固定手段 (ロック部材 2 6 1 a , 2 6 1 b , 2 6 1 c , 2 6 1 d , 2 6 1 e) が複数箇所に設けられている。すなわち、ロック部材 2 6 1 a ~ 2 6 1 e は、前記内枠 1 2 の鉤金具 1 3 6 a ~ 1 3 6 e (図 1 0 参照) に対応する位置に計 5 カ所設けられ、それぞれ各鉤金具 1 3 6 a ~ 1 3 6 e に係止される係止片を有して構成されている。この場合、鉤金具 1 3 6 a ~ 1 3 6 e に対して各ロック

10

20

30

40

50

部材 2 6 1 a ~ 2 6 1 e の係止片を係止状態にすることでドアブロック 4 に受皿ブロック 5 が装着固定され、その係止状態を解除することでドアブロック 4 から受皿ブロック 5 が取り外しできるようになっている。

【 0 1 0 4 】

球通路形成体 1 5 2 の前面側には、内枠 1 2 に設けた突起柱部 1 3 3 , 1 3 4 を受けるための支柱受け部 2 6 3 , 2 6 4 が形成されている。また、球通路形成体 1 5 2 の上部には、横長薄板状のシート板 2 6 5 が取り付けられる。このシート板 2 6 5 は、球通路形成体 1 5 2 に上皿 1 5 1 を装着した状態で球通路形成体 1 5 2 の上部に取り付けられる。

【 0 1 0 5 】

シート板 2 6 5 によれば、上皿 1 5 1 の奥側一部に上蓋が設けられるようになる（図 7 等参照）。このシート板 2 6 5 による上皿 1 5 1 の被蓋部分は、受皿ブロック 5 をドアブロック 4 に装着した状態で上皿 1 5 1 がドアブロック 4 の内部に隠れる部位に相当している。つまり、受皿ブロック 5 をドアブロック 4 に装着した状態では、ドアブロック 4（前扉体 1 1）に設けられた開口部 4 1 の前後方向の幅寸法（A）と上皿 1 5 1 前後方向の幅寸法（B）とが $A < B$ であるため（A, B は左右方向の同一箇所での寸法比較）、上皿 1 5 1 の奥側一部がドアブロック 4 の内側に没入することとなる。この場合、上皿 1 5 1 においてドアブロック 4 内側に没入した部位が上方に開放されたままであると、上皿 1 5 1 の手前側から奥側に入れた指や不正工具等が上皿奥側の上方開放部分を通じて遊技機内部に差し入れられ、その遊技機内部において不正行為などが行われるといった不都合が懸念される。この点、上記のとおりシート板 2 6 5 が設けられることにより、指や不正工具等を上皿 1 5 1 を通じて遊技機内部に差し入れることによる不正行為が抑制できる。要するに、シート板 2 6 5 は、上皿 1 5 1 と遊技機内部の空間（前扉体 1 1 の内側領域）との間を遮蔽する遮蔽部材となっている。

【 0 1 0 6 】

なお、シート板 2 6 5 は透明板で構成される。したがって、上皿 1 5 1 の一部がシート板 2 6 5 で隠されたとしても上皿 1 5 1 の内部確認（汚れや破損等の確認を含む）が容易となる。

【 0 1 0 7 】

（取込ユニット 1 5 3 の説明）

取込ユニット 1 5 3 は、遊技者による操作に基づき遊技球を所定個数ずつ取り込むための取込手段を構成するものであり、該取込ユニット 1 5 3 による所定個数分の遊技球の取込により毎回の遊技（ゲーム）の開始条件が成立し、遊技開始の準備が整えられるようになっている。

【 0 1 0 8 】

図 2 5 は取込ユニット 1 5 3 を手前側から見た斜視図、図 2 6 は同取込ユニット 1 5 3 を後方側から見た斜視図、図 2 7 , 図 2 8 は同取込ユニット 1 5 3 の分解斜視図である。取込ユニット 1 5 3 には 3 個の取込装置 3 0 1 , 3 0 2 , 3 0 3 が重なるようにして設けられており、取込ユニット 1 5 3 は全体として略立方体形状となっている（以下の説明では、図 2 5 において手前側に位置する取込装置 3 0 1 を「第 1 取込装置」、中央に位置する取込装置 3 0 2 を「第 2 取込装置」、奥側に位置する取込装置 3 0 3 を「第 3 取込装置」とも言う）。

【 0 1 0 9 】

各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 の上面には、上方に開放されて外部に露出した状態で入口通路 3 0 5 , 3 0 6 , 3 0 7 が三列に形成されている。これら入口通路 3 0 5 ~ 3 0 7 は、取込ユニット 1 5 3 における遊技球入口部を構成するものであり、受皿ブロック 5 としての完成状態では、上皿 1 5 1 から供給される遊技球が先ずは入口通路 3 0 5 ~ 3 0 7 に案内され、その後一列に並んだ状態で順次取り込まれる。同完成状態では、上皿 1 5 1 に設けた開口部 1 6 4（図 1 7 参照）を通じて上方から入口通路 3 0 5 ~ 3 0 7 が視認可能となっている。取込ユニット 1 5 3 の側面には各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 を結合させるための結合板 3 0 8 が取り付けられている。

【0110】

(取込装置301～303の説明)

次に、各取込装置301～303の構成を説明する。ただし、各取込装置301～303は、概ね同様の構成をしているため、ここでは基本的に第1取込装置301を例に挙げて説明する。図29は、取込装置301の内部構造を示す断面図、図30、図31は、取込装置301を分解して示す斜視図である。なお、以下の説明では便宜上、図29に示す状態で上下左右の各方向を記載する。

【0111】

取込装置301は、合成樹脂成型品よりなる表裏一对のハウジング部材311、312を備えている。これら両ハウジング311、312がネジ等により結合されることにより略四角箱状の筐体が形成され、その内部空間に、後述する遊技球通路が形成されるとともに該通路を開閉するための開閉ゲート機構などが収容されるようになっている。各ハウジング311、312は、カーボン入りの黒色の樹脂材料により成型されている。以下説明の便宜上、ハウジング部材311を「第1ハウジング」、ハウジング部材312を「第2ハウジング」ともいう。

【0112】

因みに、各ハウジング311、312は透明な樹脂材料で成形されていても良い。各ハウジング311、312を透明化することにより、両ハウジング311、312の結合を外すことなく、取込装置内部の遊技球通路や開閉ゲート機構などの他、通路内に貯留された遊技球を視認することができるようになる。

【0113】

第1ハウジング311及び第2ハウジング312の上面部には、それぞれ通路壁313、314が形成されており、両ハウジング311、312を結合させることで、相対向する通路壁313、314の間に前記入口通路305が形成される。入口通路305の底面は図29の左側ほど僅かに下方に傾斜している。

【0114】

第1ハウジング311側の通路壁313には円弧状の凹み部313aが形成される一方、第2ハウジング312側の通路壁314には前記凹み部313aに対向する位置に三角山状の突起部314aが形成されている。これら各通路壁313、314の凹み部313a及び突起部314aは、遊技球の流れを一定に整えるための整流部を構成するものである。入口通路305を下流側に流れる遊技球は、整流部に達すると、先ず突起部314aに衝突し、その後凹み部313aの内壁に衝突することで流れの向き(進路)を変更しながら流れる。こうして、入口通路305の整流部(凹み部313a及び突起部314a)において遊技球の流れの向きが変えられることで、遊技球の流れの勢いが減じられ、その後の流下速度が低減される。したがって、整流部の通過後における後述する遊技球検出の際の検出ミスが低減される。また、多数の遊技球が数珠繋ぎとなって取込装置301に取り込まれた場合に、整流部を通過すると、速度差によって隣接する遊技球間に間隔ができることから、複数の遊技球を1個の遊技球として誤検出する不具合もなくなる。すなわち、整流部の存在により、その通過後の遊技球検出が確実なものとなっている。

【0115】

取込装置301には、前記入口通路305の下流側において、第1ハウジング311と第2ハウジング312とにより囲まれるようにして取込通路315と排出通路316とが設けられている。これら取込通路315及び排出通路316は、入口通路305と同様に、遊技球を一通り通過させるに足りるだけの通路幅を有する。取込通路315は、入口通路305に連続して設けられ、その途中にて鉛直方向に折れ曲がるようにして形成されている。遊技者により所定の遊技開始操作が行われた際、毎回の遊技の開始条件とされる所定個数の遊技球がこの取込通路315を通じて取り込まれる。また、排出通路316は、取込通路315の折れ曲がり部分(コーナー部分)から当該取込通路315より分岐して設けられている。遊技終了に伴う精算時などにおいては、本取込装置301や上皿151に残留している遊技球がこの排出通路316を通じて遊技者に返還される(すなわち、上

10

20

30

40

50

皿 1 5 1 等の球抜きが行われる)。

【0 1 1 6】

なお、第 1 ハウジング 3 1 1 と第 2 ハウジング 3 1 2 は、厚さ方向の寸法が異なるものとなっており、入口通路 3 0 5、取込通路 3 1 5 及び排出通路 3 1 6 は、大部分が第 1 ハウジング 3 1 1 側に形成されるようになっている。これにより、遊技球が実際に接触する経路は、両ハウジング 3 1 1, 3 1 2 の境界部分(接合部分)から外れた部位となり、境界部分に溜まったゴミやほこり等により遊技球の流れが阻害されるといった不都合が回避されるようになっている。

【0 1 1 7】

また、第 1, 第 2 ハウジング 3 1 1, 3 1 2 には、入口通路 3 0 5 及び取込通路 3 1 5 に沿って一筋の突条部 3 1 7 が設けられている。この突条部 3 1 7 は、入口通路 3 0 5 及び取込通路 3 1 5 を通過する遊技球の外周面に接触するようにして通路の中央部(入口通路 3 0 5 にあっては高さ方向の中央部、取込通路 3 1 5 にあっては左右幅方向の中央部)に設けられている。突条部 3 1 7 の高さ(通路内部への突出寸法)は 0.5 mm 程度であり、これにより入口通路 3 0 5 及び取込通路 3 1 5 の通路幅が狭められるようになっている。つまり、入口通路 3 0 5 及び取込通路 3 1 5 は基本的に通路幅が 12 mm 程度であるが、突条部 3 1 7 を設けることにより、実質的な通路幅が 11.5 mm 程度に狭められている。これにより、入口通路 3 0 5 及び取込通路 3 1 5 の内壁と遊技球との隙間間隔(遊び)を減らすことができ、安定した状態で遊技球が流下することとなる。特に、取込通路 3 1 5 においては、後述する遊技球検出が行われるため、その検出ミスを低減させることができる。ただし、突条部 3 1 7 は、第 1, 第 2 ハウジング 3 1 1, 3 1 2 のいずれか一方にのみ設けられる構成であっても良い。前記整流部における突条部 3 1 7 の設置は任意である。

【0 1 1 8】

ハウジング内部空間において取込通路 3 1 5 の側方には、当該取込通路 3 1 5 の鉛直方向部分に沿うようにして取込ゲート部材 3 2 0 が設けられている。取込ゲート部材 3 2 0 は、支軸 3 2 1 により回動可能に支持されており、その支軸 3 2 1 を支点とする回動により、該取込ゲート部材 3 2 0 の先端部に設けた爪部 3 2 0 a が取込通路 3 1 5 に対して出没する。このとき、取込通路 3 1 5 の通路壁には通路切欠部 3 2 2 が形成されており、その通路切欠部 3 2 2 を介して取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が出没する。取込通路 3 1 5 に対して取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が突出した状態である場合、取込通路 3 1 5 を介しての遊技球の通過が阻止される。また、取込通路 3 1 5 に対して取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が没入した状態である場合、取込通路 3 1 5 を介しての遊技球の通過が許容される。

【0 1 1 9】

かかる場合、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a の出没位置が取込通路 3 1 5 におけるコーナー部分の直ぐ下流位置であるため、換言すれば通路切欠部 3 2 2 が取込通路 3 1 5 におけるコーナー部分の直ぐ下流位置に形成されているため、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が通路内に突出した状態(通過阻止状態)において、取込通路 3 1 5 のコーナー部まで流れてきた遊技球が該取込通路 3 1 5 の鉛直部分に流れ込むことがない構成となっている。

【0 1 2 0】

ハウジング内部空間には、取込ゲート部材 3 2 0 の駆動源としてソレノイド 3 2 5 が配設されている。ソレノイド 3 2 5 は、本体部 3 2 6 と出力軸 3 2 7 とを主要構成部品として備えており、本体部 3 2 6 が通電されることにより出力軸 3 2 7 が伸縮方向に移動する。当該ソレノイド 3 2 5 は、取込ゲート部材 3 2 0 の右方において、出力軸 3 2 7 が下方へと突き出るように配設されている。また、ソレノイド 3 2 5 には、出力軸 3 2 7 を伸長状態で保持するためのコイルバネ 3 2 8 が設けられている。なお、ソレノイド 3 2 5 は、ソレノイドカバー 3 2 9 により第 1 ハウジング 3 1 1 に固定されている。

【0 1 2 1】

ソレノイド出力軸 3 2 7 の先端部にはガイド 3 3 1 が取り付けられている。ガイド 3 3 1 には回動片 3 3 2 の一部に係合されており、同回動片 3 3 2 の他部が取込ゲート部材 3 2 0 の後端部に駆動連結されている。符号 3 3 3 は、回動片 3 3 2 のほぼ中央部に設けられ該回動片 3 3 2 を回動可能に支持する支軸である。

【 0 1 2 2 】

本構成によれば、ソレノイド 3 2 5 への通電がない場合には、図示の如くコイルバネ 3 2 8 の付勢力によって出力軸 3 2 7 が伸長した状態で保持され、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が取込通路 3 1 5 内に突出した状態とされる。これにより、取込通路 3 1 5 が閉鎖される。一方、ソレノイド 3 2 5 が通電されると、コイルバネ 3 2 8 の付勢力に抗して出力軸 3 2 7 が縮み方向に移動する。よって、ガイド 3 3 1 及び回動片 3 3 2 を介して取込ゲート部材 3 2 0 が回動し（図 2 9 では時計回り方向に回動し）、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が取込通路 3 1 5 外に引っ込んだ状態とされる。これにより、取込通路 3 1 5 が開放される。また、ソレノイド 3 2 5 への通電を中止すると、コイルバネ 3 2 8 の付勢力によって出力軸 3 2 7 が伸長状態となり、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が取込通路 3 1 5 内に突出した状態に戻る。

10

【 0 1 2 3 】

一方、第 1 , 第 2 ハウジング 3 1 1 , 3 1 2 において排出通路 3 1 6 の入口位置には、それぞれ貫通孔 3 3 7 , 3 3 8 が設けられており、その貫通孔 3 3 7 , 3 3 8 を前後方向に貫通するようにして排出ゲート部材 3 4 0 が設けられている。排出ゲート部材 3 4 0 は、取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 に個別に設けられるのではなく、全取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 に共通に設けられるものとなっており、該排出ゲート部材 3 4 0 の作動状態によって、各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 において同時に遊技球の排出（球抜き）が許容又は阻止されるようになっている。

20

【 0 1 2 4 】

ここで、排出ゲート部材 3 4 0 の詳細を図 3 2 に基づいて説明する。排出ゲート部材 3 4 0 は、全体として略長形状をなしており、3カ所に略正方形の開口部 3 4 1 , 3 4 2 , 3 4 3 が形成されている。これら開口部 3 4 1 ~ 3 4 3 は各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 に設けられた排出通路 3 1 6 にそれぞれ対応するものであり、一定間隔を隔ててそれぞれ設けられている。なお、開口部 3 4 1 ~ 3 4 3 は排出通路 3 1 6 の一部を構成する。この場合、排出ゲート部材 3 4 0 がその長手方向（取込ユニット 1 5 3 の前後方向）に移動することにより、排出通路 3 1 6 が閉鎖又は開放の状態とされる。すなわち、図 3 3 の動作説明図において、排出ゲート部材 3 4 0 が（a）に示す位置にある場合、排出ゲート部材 3 4 0 の壁板部により各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 の排出通路 3 1 6 が閉鎖され、当該通路 3 1 6 を通じての遊技球の排出が阻止される。また、排出ゲート部材 3 4 0 が（b）に示す位置に移動すると、排出ゲート部材 3 4 0 の開口部 3 4 1 ~ 3 4 3 により各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 の排出通路 3 1 6 が一斉に開放され、当該通路 3 1 6 を通じての遊技球の排出が許容される。

30

【 0 1 2 5 】

開口部 3 4 1 ~ 3 4 3 の下方には、それぞれ球案内突部 3 4 4 , 3 4 5 , 3 4 6 が形成されている。この球案内突部 3 4 4 ~ 3 4 6 の上面は、各開口部 3 4 1 ~ 3 4 3 の底部上面に連続して同一角度で設けられており、その角度は排出通路 3 1 6 の入口部の傾斜角度に合致している。これにより、遊技球が開口部 3 4 1 ~ 3 4 3 を介して排出通路 3 1 6 に流入する際には、球案内突部 3 4 4 ~ 3 4 6 上を転がりながら遊技球が通過し、排出通路 3 1 6 への遊技球の流入がスムーズに行われることとなる。

40

【 0 1 2 6 】

排出ゲート部材 3 4 0 の一方の端部にはバネ受け部 3 4 7 が形成され、他方の端部にはロッド部 3 4 8 が形成されている。かかる場合、図 2 7 等 に示すように、第 3 取込装置 3 0 3 にカバー部材 3 5 1 が設けられ、そのカバー部材 3 5 1 と排出ゲート部材 3 4 0 のバネ受け部 3 4 7 との間にコイルバネ 2 5 2 が組み込まれる。なお、符号 3 5 3 はコイルバネ 3 5 2 を収容するためのバネ収容部である。符号 3 5 4 は、本取込ユニット 1 5 3 にお

50

ける電気配線等を一括して集め、主制御装置等に対して電氣的に接続可能とする中継基板である。

【0127】

排出ゲート部材340は、コイルバネ352の付勢力によって一方向に常に付勢される。このとき実際には、排出ゲート部材340はコイルバネ352の付勢力により前記図33の(a)の状態に保持され、ロッド部348から力が加わると、排出ゲート部材340がコイルバネ352の付勢力に抗して図33の(b)の状態に移行する。

【0128】

図25等にも示すように、取込ユニット153において第1取込装置301側にはロッド部348が突出している。このロッド部348の先端部は、前述した排出操作伝達装置180の第2リンク片185(図18参照)に当接するようになっており、当該排出操作伝達装置180において操作レバー188が操作され、それに伴い各リンク片184, 185が動作すると、その動作がロッド部348に伝達される。これにより、排出ゲート部材340が動作する。

【0129】

排出ゲート部材340の一方の端部において、前記バネ受け部347の下方には、排出ゲート部材340の長手方向に延びる突起部355が形成されている。また、排出ゲート部材340の一端側に設けられるカバー部材351には排出ゲート検出センサ356が設けられる(図27参照)。この場合、前述のとおりコイルバネ352の付勢力によって排出ゲート部材340が一方向に常に付勢されている状態では、排出ゲート検出センサ356によって突起部355が検出されることはない。これに対し、排出ゲート部材340がコイルバネ352の付勢力に抗して移動することで、排出ゲート検出センサ356によって突起部355が検出される。つまり、排出ゲート検出センサ356は、排出ゲート部材340の操作状態(操作位置)を検出するための排出操作検出手段を構成するものとなっている。

【0130】

また、第1取込装置301には、取込通路315における遊技球の通過を検出するセンサユニット370が設けられている。センサユニット370の構成を図30, 図31を用いて説明する。このセンサユニット370は、取込通路315を通過する遊技球数をカウントするための遊技球カウント手段を構成するものであり、発光素子と受光素子とからなる周知の光学式センサを備える。

【0131】

センサユニット370は、略コ字形状をなしており、第1, 第2ハウジング311, 312に跨るようにして組み付けられている。詳細には、センサユニット370は、取込装置301の厚さ方向に延びるセンサ本体部371と、該センサ本体部371の両端から各ハウジング311, 312の外壁面に沿って取込通路315側に延びるアーム部372, 373とを有している。センサ本体部371にはセンサ回路基板(図示略)が収容されており、そのセンサ本体部371の背面部にはセンサ回路基板上に設けたコネクタ端子374を外部に露出させるためのコネクタ穴371aが形成されている。

【0132】

アーム部372, 373のうち一方には発光素子が収容されるとともに、他方には受光素子が収容されている。また、アーム部372, 373の先端部には、互いに内側となる部位に上下一対のセンサ検出孔376, 377が形成されている。この場合、アーム部372, 373内には各2個ずつの発光素子と受光素子が収容されており、これら各素子はセンサ検出孔376, 377を通じて発光及び受光を行うようになっている。

【0133】

第1, 第2ハウジング311, 312の外壁面には、前記センサユニット370の各アーム部372, 373を設置するための嵌合溝378, 379が形成されている。嵌合溝378, 379には上下一対の透孔378a, 379aが形成されている。各透孔378a, 379aは、第1, 第2ハウジング311, 312を接合した状態で各々向き合うよ

10

20

30

40

50

う配置されている。そして、ハウジング接合状態で、各ハウジング 3 1 1 , 3 1 2 にセンサユニット 3 7 0 が組み付けられる場合には、アーム部 3 7 2 , 3 7 3 が各々対応する嵌合溝 3 7 8 , 3 7 9 に嵌合されるようにしてセンサユニット 3 7 0 がハウジング 3 1 1 , 3 1 2 に組み付けられる。この状態では、各アーム部 3 7 2 , 3 7 3 の先端部に設けたセンサ検出孔 3 7 6 , 3 7 7 の位置と、各ハウジング 3 1 1 , 3 1 2 の嵌合溝 3 7 8 , 3 7 9 に設けた透孔 3 7 8 a , 3 7 9 a の位置とが合致し、それらが向き合うようにして配置される。

【 0 1 3 4 】

図 2 9 に示すように、ハウジング内部において、透孔 3 7 8 a は取込通路 3 1 5 内で中心から幾分オフセットした位置に設けられている（図示は略すが、透孔 3 7 9 a も同様）。この透孔 3 7 8 a（3 7 9 a）の位置がセンサユニット 3 7 0 による遊技球検出位置である。この場合特に、透孔 3 7 8 a（3 7 9 a）は、取込ゲート部材 3 2 0 の先端部に形成した爪部 3 2 0 a の真下位置（図 2 9 において取込通路 3 1 5 の右オフセット位置）に設けられており、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が没入側に移動しない限りセンサユニット 3 7 0 により遊技球が検出されることはないようになっている。仮に、透孔 3 7 8 a（3 7 9 a）が取込通路 3 1 5 において逆側（図 2 9 において取込通路 3 1 5 の左オフセット位置）に設けられた場合を想定すると、取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a が突出位置にある状態での遊技球誤検出（排出通路 3 1 6 を通じての遊技球排出時の遊技球誤検出も含む）を防止するには透孔 3 7 8 a（3 7 9 a）の位置を図示の位置よりも下方に下げる必要が生じるが、本遊技機 1 の上記構成によれば、透孔 3 7 8 a（3 7 9 a）を取込ゲート部材 3 2 0 の爪部 3 2 0 a の近傍に配置することが可能となる。したがって、取込ゲート部材 3 2 0 の開放により流下する遊技球をいち早く検出することが可能となる。

【 0 1 3 5 】

取込ゲート部材 3 2 0 が開放された状態で遊技球が取り込まれる際、センサユニット 3 7 0 において上下の各センサ素子（発光素子 + 受光素子）では、先に上流側のセンサ素子で遊技球が検出され、その後下流側のセンサ素子で遊技球が検出される。これら各センサ素子による検出信号は、遊技球の取込を管理する後述の主制御装置 5 0 5 に順に出力される。この場合、主制御装置 5 0 5 では、各センサ素子による遊技球検出信号によって正常に遊技球の取込が行われたかどうか判定される。具体的には、所定の規定時間内に、上流側のセンサ素子 下流側のセンサ素子の順で遊技球の検出が行われた場合のみ、正常に遊技球の取込が行われたと判定される。

【 0 1 3 6 】

仮に、上流側のセンサ素子による遊技球検出から下流側のセンサ素子による遊技球検出までの所要時間が規定時間よりも長い場合や、正常時とは逆に下流側のセンサ素子 上流側のセンサ素子の順で遊技球の検出が行われた場合には異常とみなされ、その旨が報知されるとともにそれ以降の遊技が停止される。したがって、例えば、遊技球やその他ダミー被検出物にひも等を付けて上下させることにより、あたかも複数の遊技球が取り込まれたようにするなどの不正行為が防止できるようになっている。

【 0 1 3 7 】

上記のように、センサユニット 3 7 0 では各アーム部 3 7 2 , 3 7 3 のうち一方が発光部、他方が受光部となっており、それら発光部と受光部とが一体で設けられている。これにより、発光素子と受光素子との位置合わせ精度を高めることができ、遊技機の検出精度を良好なものとする事ができる。また、各アーム部 3 7 2 , 3 7 3 を連結するセンサ本体部 3 7 1 にセンサ回路基板を設けるとともに、該センサ回路基板上に設けたコネクタ端子 3 7 4 によって外部基板との電気的な接続を可能としたため、発光素子や受光素子に繋がる信号線を統合してまとめることができ、さらに外部基板に対する配線の接続も容易なものとなる。

【 0 1 3 8 】

また、取込通路 3 1 5 の最下流部には、取込ゲート部材 3 2 0 を通過した遊技球をセン

10

20

30

40

50

サユニット 370 で検出した後、同遊技球を再度検出するための下流側取込センサ 380 が設けられている。この下流側取込センサ 380 は磁気検出タイプの近接センサにて構成されており、遊技球の通過に伴う磁界の変化により遊技球の通過を検出する。すなわち、板状のセンサ本体部 381 には貫通孔 381a が設けられており、センサ本体部 381 では貫通孔 381a を遊技球が通過する際の磁界の変化が検出されて電気信号として出力される。貫通孔 381a は略真円状をなしており、その直径は取込通路 315 の幅寸法に概ね一致している。センサ本体部 381 にはコネクタ端子 382 が設けられている。

【0139】

下流側取込センサ 380 による検出信号は、前記センサユニット 370 の検出信号と同様、後述する主制御装置 505 に対して出力される。この場合、主制御装置 505 では、前記センサユニット 370 の検出信号と下流側取込センサ 380 の検出信号とに基づいて今回の遊技球取込の検出結果（センサユニット 370 による取込判定の結果）が正規なものかどうか、すなわち不正なものでないかどうかと判定される。具体的には、センサユニット 370 による球技球カウント数（例えば、一方のセンサ素子の検出結果による遊技球カウント数）と、下流側取込センサ 380 による遊技球カウント数とを比較し、それら各カウント数が一致する場合に、今回の遊技球取込の検出結果（センサユニット 370 による取込判定の結果）が正規であると判定する。これに対し、各カウント数が不一致となる場合に、今回の遊技球取込の検出結果（センサユニット 370 による取込判定の結果）が正規なものでなく、不正行為によるものであると判定する。

【0140】

取込装置 301 に対する不正行為として、センサユニット 370 に、遊技球の通過を誤検出させるように発光動作する不正装置を取り付けることが考えられる。例えば、実際の遊技球取込に関係なく点滅動作するような 2 つの発光体を備えてなる不正装置を取込装置 301 に取り付け、それら各発光体を所定順序で点滅させることで遊技球の通過を誤検出させるようにする。かかる不正行為がなされた場合、センサユニット 370 による遊技球検出だけでは不正行為による遊技球の誤検出を回避することが困難であった。この点、上記のように下流側取込センサ 380 の検出信号による不正確認によって、不正行為による遊技球の誤検出を回避することができる。

【0141】

取込通路 315 に、互いに検出方式の異なる 2 つのセンサ装置（センサユニット 370 、下流側取込センサ 380 ）を設けたため、各センサ装置のいずれにおいても遊技球を誤検出させるようにすることは困難なものとなる。故に、取込装置 301 における不正対策が望ましいものとなっている。

【0142】

上述した取込装置 301 の各構成部材（排出ゲート部材 340 を除く、取込ゲート部材 320 、ソレノイド 325 を含むゲート駆動機構、センサユニット 370 等）は、入口通路 305 と取込通路 315 とのコーナー部分の内側領域に集約して配設されている。これにより、各構成部材を限られた領域内で効率良く配置することができ、結果として取込装置 301 の小型化（薄型化も含む）が実現できるようになっている。

【0143】

次に、図 34 を用い、第 1 取込装置 301 による実際の遊技球の取込動作を説明する。図 34 において（a）は初期状態を示し、（b）は遊技球の取込状態を示し、（c）は遊技球の排出状態を示す。なお、実際の遊技に際し、入口通路 305 には続々と遊技球が入ってくるが、図 34 の（a）～（c）では、5 個の遊技球のみを図示している。

【0144】

図 34 の（a）に示す初期状態では、ソレノイド 325 が非通電となっており、取込ゲート部材 320 の爪部 320a が取込通路 315 内に突出している。また、排出ゲート部材 340 が非操作の状態にあるため、当該排出ゲート部材 340 によって排出通路 316 の入口が閉鎖されている。つまり、取込ゲート部材 320 及び排出ゲート部材 340 によって取込通路 315 及び排出通路 316 が閉状態となっており、これにより遊技球の通過

10

20

30

40

50

が阻止されている。この場合、取込装置 301 内に入ってきた遊技球のうち、先頭の遊技球は取込ゲート部材 320 と排出ゲート部材 340 との両方に当たった状態で保持されている。

【0145】

また、図 34 の (b) に示す遊技球の取込状態では、ソレノイド 325 の通電により取込ゲート部材 320 の爪部 320a が取込通路 315 から引っ込んだ状態となる。これにより、取込通路 315 の遊技球の通過が許容され、遊技球の取込が順次行われる。遊技球の取込が行われる際、入口通路 305 から取込通路 315 に入ってきた遊技球は通路閉鎖状態にある排出ゲート部材 340 に衝突し、その衝突により流れの勢いが減じられ、その後取込通路 315 の下流側へと流れる。このとき、取込通路 315 では前後する遊技球が互いに離間した状態で流下し、センサユニット 370 によって遊技球の通過が確実に検知される。

10

【0146】

さらに、図 34 の (c) に示す遊技球の排出状態では、遊技者による排出操作（実際には排出操作伝達装置 180 の操作レバー 188 の操作）によって排出ゲート部材 340 が動作して通路開放状態とされる（ただしこのとき、ソレノイド 325 は非通電状態にある）。これにより、排出通路 316 内における遊技球の通過が許容され、遊技球の排出（球抜き）が行われる。遊技球の排出が行われる際、取込通路 315 の鉛直部分の入口部は、取込ゲート部材 320 の爪部 320a と排出ゲート部材 340 の球案内突部 344 とにより閉鎖され、それら爪部 320a と球案内突部 344 との上を遊技球が通過する。このとき、遊技球はスムーズに流れ、遊技球の排出が好適に行われる。

20

【0147】

上記構成の取込装置が 3 連で設けられた取込ユニット 153 では、上皿 151 の案内通路 171 ~ 173 から各取込装置 301 ~ 303 にそれぞれ遊技球が供給され、遊技機前面のベットスイッチ 37 の操作に伴い各取込装置 301 ~ 303 では各々で遊技球が取り込まれる。具体的には、例えば 15 個（マックスベット分）の遊技球が取り込まれる場合、全ての取込装置 301 ~ 303 において同時に取込ゲート部材 320 が開放位置に操作され、遊技球の取込が一斉に開始される。このとき、各取込装置 301 ~ 303 では遊技球が 5 個ずつ取り込まれる。

【0148】

ただし、3 個の取込装置 301 ~ 303 のうちいずれかの取込装置に遊技球が充填されていない場合、又はソレノイド 325 の故障などでいずれかの取込装置が正常に作動しない場合には、正常な取込動作を行うことができる残りの取込装置により遊技球の取込が行われる。例えば、第 1 取込装置 301 に遊技球が充填されていないとき又は同取込装置 301 のソレノイド 325 などが故障しているときには、第 1 取込装置 301 以外の取込装置（第 2 , 第 3 取込装置 302 , 303）によって 15 個の遊技球が取り込まれることとなる。

30

【0149】

一方、取込装置 301 ~ 303 や上皿 151 に残っている遊技球を下皿 71 へ排出する場合には、遊技機前面の操作レバー 188 の操作に伴い排出ゲート部材 340 が操作されて各取込装置 301 ~ 303 で一斉に遊技球の排出が行われる。

40

【0150】

（払出制御ユニット 155 の説明）

次に、払出制御ユニット 155 について説明する。図 35 は、払出制御ユニット 155 の分解斜視図である。なお払出制御ユニット 155 としての完成状態は図 8 等 に示されているため、これを参照されたい。図 35 等 に示すように、払出制御ユニット 155 は、電源装置 156 と払出制御装置 157 とを横に並べ、それら各装置 156 , 157 を連結具 401 で連結することにより構成されている。

【0151】

詳しくは、電源装置 156 は、電源基板（図示略）とその電源基板を収容する基板ボッ

50

クス402とにより構成されている。基板ボックス402は、合成樹脂材料にて成形されており、特に内部（電源基板）を視認可能とすべく透明ボックスとされている。基板ボックス402の上面及び下面の隅部にはスリット状の切欠が形成されており、その切欠によって可撓板部403が形成されるとともに、その可撓板部403上に突起404が形成されている（ただし図35には上側の可撓板部及び突起のみを示す）。これにより、可撓板部403及び突起404は上方（又は下方）からの力の作用により撓み変形する。

【0152】

また、払出制御装置157は、払出制御基板（図示略）とその払出制御基板を収容する基板ボックス405とにより構成されている。基板ボックス405は、合成樹脂材料にて成形されており、特に内部（払出制御基板）を視認可能とすべく透明ボックスとされている。基板ボックス405の上面及び下面の隅部にはスリット状の切欠が形成されており、その切欠によって可撓板部406が形成されるとともに、その可撓板部406上に突起407が形成されている（ただし図35には上側の可撓板部及び突起のみを示す）。これにより、可撓板部406及び突起407は上方（又は下方）からの力の作用により撓み変形する。電源装置156及び払出制御装置157の各基板ボックス402、405において、それらの高さ寸法（上下方向の寸法）と厚さ寸法（前後方向の寸法）は同一となっている。

10

【0153】

連結具401は略コ字状をなしており、中板部401a、上板部401b及び下板部401cよりなる。中板部401aは、電源装置156及び払出制御装置157の各基板ボックス402、405の高さ寸法とほぼ同じ長さ寸法（上下方向の寸法）を有し、上板部401b及び下板部401cは同基板ボックス402、405の厚さ寸法とほぼ同じ長さ寸法（前後方向の寸法）を有する。上板部401b及び下板部401cには各2個ずつの孔部408、409が形成されている。

20

【0154】

電源装置156及び払出制御装置157の各基板ボックス402、405に設けた突起404、407を連結具401の各孔部408、409に係合させることで、連結具401を介して電源装置156及び払出制御装置157が連結される。電源装置156及び払出制御装置157が連結された状態では、それら各装置156、157内の基板はいずれも同一方向（受皿ブロック5としては後方側）を向くようになっている。当該状態では、電源装置156及び払出制御装置157が所定の隙間を隔てて配置される。そして、図15等に応示するように、電源装置156及び払出制御装置157の基板裏面側（連結具401の中板部401a側）を球通路形成体152に対向させるようにして、払出制御ユニット155が球通路形成体152に取り付けられる。

30

【0155】

（受皿ブロック5としての動作説明）

受皿ブロック5としての動作を図7（全体斜視図）、図17（上皿151の平面図）、図21（球通路形成体152の斜視図）、図29（取込装置301の構成断面図）等を用いて説明する。

【0156】

上記の如く構成される受皿ブロック5において、上皿151に多数の遊技球が貯留されている状態では、遊技球は上皿151の最下流部である案内通路171～173で各一列に整列され、その整列状態で各案内通路171～173に対応する取込装置301～303の入口通路305～307に案内される。このとき、各案内通路171～173の一部と入口通路305～307の上方には透明なカバー部材175が取り付けられており、各案内通路171～173及び入口通路305～307を通じて流下する遊技球が容易に視認可能となっている。

40

【0157】

そして、取込ユニット153の各取込装置301～303における遊技球取込時には、各取込装置301～303の取込ゲート部材320が開放操作されて取込通路315を通

50

じて遊技球が順次取り込まれる。該取り込まれた遊技球は、球通路形成体 1 5 2 に設けられた球排出室 2 1 6 外部誘導通路 2 1 7 の順に流れて外部（遊技ホールの島設備）に排出される。また、排出ゲート部材 3 4 0 の操作による遊技球排出時（球抜き時）には、遊技球が、各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 の排出通路 3 1 6 排出誘導通路 2 1 8 排出口 2 0 3 の順に流れて最終的に下皿 7 1 に排出される。

【0 1 5 8】

一方、後述する払出装置等から遊技球分配部材 2 1 0 に遊技球が供給されると、該分配通路 2 1 0 に設けられた各通路 2 1 1 ~ 2 1 3 による振り分けによって、遊技球が上皿 1 5 1、下皿排出通路 2 0 1、外部排出通路 2 0 2 のいずれかに分配される。

【0 1 5 9】

（面替えブロック 6 の説明）

次に、面替えブロック 6 について説明する。図 3 6 は面替えブロック 6 を斜め前方より見た斜視図、図 3 7 は同面替えブロック 6 を斜め後方から見た斜視図、図 3 8 は同面替えブロック 6 の正面図である。また、図 3 9、図 4 0 は面替えブロック 6 の分解斜視図である。

10

【0 1 6 0】

面替えブロック 6 は主要な構成として、前面枠 5 0 1 及びベース板 5 0 2 で構成されるパネル体 5 0 0 と、図柄表示装置としてのリール装置 5 0 3 と、補助演出装置としての液晶表示装置 5 0 4 と、遊技に関わる主たる各種制御を実施する主制御装置 5 0 5 と、主制御装置 5 0 5 からの指令に基づく従たる表示制御等を実施する表示制御装置 5 0 6 とを備えている。この場合、面替えブロック 6 は、本遊技機 1 の遊技内容を決定する主要部品を全て備える構成となっており、仮に遊技ホール等において機種入替を行う場合には、この面替えブロック 6 を現機種のものから新たな機種のものに入れ替えることで機種入替を行うことができるようになっている。すなわち、面替えブロック 6 は機種入替時などにおける交換ユニットとなっている。

20

【0 1 6 1】

（前面枠 5 0 1 の説明）

前面枠 5 0 1 の詳細を図 4 1 等を用いて説明する。図 4 1 において、(a) は前面枠 5 0 1 を前方から見た斜視図、(b) は前面枠 5 0 1 を後方から見た斜視図である。

【0 1 6 2】

前面枠 5 0 1 は、合成樹脂によって正面から見てほぼ正方形となるよう形成されている。そして、その周縁部に設けられたフランジ部 5 1 1 から前方に突出するようにして立体的に窓枠部 5 1 2 が形成されている。窓枠部 5 1 2 は、正面から見て略台形状に成形されており、これは前扉体 1 1 の視認窓 2 1 にほぼ一致する形状及び大きさとなっている。

30

【0 1 6 3】

また、窓枠部 5 1 2 の前面部には、いずれも横長の矩形状をなす上下 2 つの開口が設けられており、それぞれ上側表示窓 5 1 3、下側表示窓 5 1 4 となっている。各表示窓 5 1 3、5 1 4 は、窓枠部 5 1 2 の前面部において左右方向のほぼ中央部にそれぞれ設けられており、両者を比較すると下側表示窓 5 1 4 の方が大きめに形成されている。上側表示窓 5 1 3 は、液晶表示装置 5 0 4 による表示画像を表示するための液晶画像表示部に相当し、下側表示窓 5 1 4 は、リール装置 5 0 3 の外周に付されたリール図柄を表示するためのリール図柄表示部に相当する。

40

【0 1 6 4】

窓枠部 5 1 2 の前面（すなわち前記表示窓 5 1 3、5 1 4 以外の部位）は概ね平坦面にて構成されている。ただし、窓枠部 5 1 2 において上側表示窓 5 1 3 の周囲部分と下側表示窓 5 1 4 の周囲部分とを比較すると、それらの設置角度は異なっており、上側表示窓 5 1 3 の周囲部分は概ね鉛直方向に設けられるのに対し、下側表示窓 5 1 4 の周囲部分は若干上方を向くようにして設けられている。こうした窓枠部 5 1 2 の前面角度は、前扉体 1 1 の視認窓 2 1 に設けられた透明パネル 2 2 に即したものとなっている。したがって、面替えブロック 6 をドアブロック 4 に装着した状態を想定すると、上側表示窓 5 1 3 の周囲

50

部分は透明パネル 2 2 の上側パネル面 2 2 a と同様にはほぼ鉛直方向に設けられ、下側表示窓 5 1 4 の周囲部分は、同透明パネル 2 2 の下側パネル面 2 2 b と同様に若干上方を向くようにして設けられることとなる。

【 0 1 6 5 】

面替えブロック 6 をドアブロック 4 に装着した状態では、前面枠 5 0 1 のフランジ部 5 1 1 がドアブロック 4 のパネル支持板材 9 2 (図 8 参照) に当接する。ただしこのとき、前面枠 5 0 1 においてフランジ部 5 1 1 から窓枠部 5 1 2 の前面までの長さ (前後方向の幅) と、パネル支持板材 9 2 の前後方向の長さと比較すると、後者の方が大きいものとなっている。したがって、前記装着状態では、窓枠部 5 1 2 の前面と透明パネル 2 2 との間に隙間ができるようになっている。

10

【 0 1 6 6 】

窓枠部 5 1 2 の前面において、前記表示窓 5 1 3 , 5 1 4 の周囲領域は、機種固有の部材 (以下、装飾部材とも称する) を設けるための装飾領域 F として構成されている。装飾部材として、例えば、図柄に対応する遊技球の払出個数を示す配当表やその機種のシンボルとなるキャラクタなどが付されたシール片が挙げられる。窓枠部 5 1 2 とドアブロック 4 側の視認窓 2 1 (透明パネル 2 2) とはほぼ同じ大きさを有する。このため、透明パネル 2 2 を介して、上記装飾部材が視認可能となる。また、前述のとおり窓枠部 5 1 2 の装飾領域 F は概ね平坦面として構成されているため、装飾部材としてシール片を用いる場合には、好適に貼付することができる。

【 0 1 6 7 】

20

(ベース板 5 0 2 の説明)

次に、ベース板 5 0 2 の詳細を図 4 2 等を用いて説明する。図 4 2 において、(a) はベース板 5 0 2 を前方から見た斜視図、(b) はベース板 5 0 2 を後方から見た斜視図である。

【 0 1 6 8 】

ベース板 5 0 2 は、鋼板などの金属によって前記前面枠 5 0 1 とほぼ同じ大きさに形成されている。そしてベース板 5 0 2 には、各々矩形状をなす上下 2 つの開口部 (上側開口部 5 2 1 , 下側開口部 5 2 2) が形成されている。このうち、上側開口部 5 2 1 は液晶表示装置 5 0 4 を装着するための開口であり、下側開口部 5 2 2 はリール装置 5 0 3 を装着するための開口である。そして、ベース板 5 0 2 は、各開口部 5 2 1 , 5 2 2 の側方部位で前記前面枠 5 0 1 の背面側への取り付けが行われる。なお、各開口部 5 2 1 , 5 2 2 は、前面枠 5 0 1 の各表示窓 5 1 3 , 5 1 4 にそれぞれ対応して設けられており、各表示窓 5 1 3 , 5 1 4 よりも一回り大きいものとなっている。

30

【 0 1 6 9 】

ベース板 5 0 2 の背面側において、上下の各開口部 5 2 1 , 5 2 2 の間の開口縁部と下側開口部 5 2 2 の下側の開口縁部とはそれぞれ、リール装置 5 0 3 を支持するための長尺状の上側リール支持部材 5 2 5 と下側リール支持部材 5 2 6 が設けられている。上側リール支持部材 5 2 5 には左右 2 カ所に孔部 5 2 5 a , 5 2 5 b が設けられている。下側リール支持部材 5 2 6 には左右 2 カ所に孔部 5 2 6 a , 5 2 6 b が設けられるとともに、後述するケース部材 5 4 0 の支持固定部 5 4 6 を載せるための返し部 5 2 7 が設けられている。

40

【 0 1 7 0 】

ベース板 5 0 2 の背面を正面視して、ベース板 5 0 2 には、上側開口部 5 2 1 と下側開口部 5 2 2 によって右枠部 5 2 3 と左枠部 5 2 4 とが形成されている。そして、右枠部 5 2 3 には右柱部材 5 3 1 が、左枠部 5 2 4 には左柱部材 5 3 2 が、それぞれ取り付けられている。右柱部材 5 3 1 は角柱状に形成されており、支持金具 5 3 3 が取り付けられている。支持金具 5 3 3 には上下一対の支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b が設けられている。これら支持金具 5 3 3 と支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b とで支軸部材が構成されている。そして、支持金具 5 3 3 の支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b は、面替えブロック 6 をドアブロック 4 に回転可能に支持するための支持手段を構成するものであり、この支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b がドアブ

50

ック4に設けられた軸金具110, 111の軸受け部110b, 111aの軸孔(図8等参照)に差し入れられるようになっている。なお、ドアブロック4側の軸受け部110b, 111aと面替えブロック6側の支軸534a, 534bとが前記図6に示す「面替えブロック6用の支持手段M1, M2」に相当する。

【0171】

上述の如く、右柱部材531が面替えブロック6のドアブロック4に対する回転軸側となっているため、左柱部材532は面替えブロック6のドアブロック4に対する開放先端側となる。この左柱部材532は、その下部が下側開口部522側に若干突出した略L字状に形成されている。左柱部材532のその下側開口部522側に突出した下部は、主制御装置505を組み付けるための下固定部530となっている。そして、この下固定部530には、後方に延びる突起部530aが形成されている。また、左柱部材532には金具板535が取り付けられており、金具板535には上下一対の鉤部536a, 536bが設けられている。これら金具板535と鉤部536a, 536bとで固定部材が構成されている。そして、この鉤部536a, 536bは、面替えブロック6に対して払出ブロック7を固定するための固定手段として機能する。

10

【0172】

ベース板502の背面側において、右枠部523及び左枠部524には、上述した上側リール支持部材525の左右両端部より外方であり且つ概ね同じ高さ位置に、表示制御装置506を取付固定するための固定部528, 529が設けられている(以下、右枠部523に設けられている固定部を右固定部528と称し、左枠部524に設けられる固定部左固定部529と称する。)。そして、右固定部528には後方に延びる突起部528a, 528bが形成されており、左固定部529にも右固定部528と同様に突起部529a, 529bが形成されている。また、左固定部529の突起部529aから鉛直方向に延びる軸を想定した場合、上述した下固定部530(突起部530a)がその軸上に位置している。

20

【0173】

また、ベース板502の背面側には、上側開口部521と柱部531との間に外部端子板537が取り付けられている。

【0174】

(リール装置503の説明)

図43は、リール装置503の構成を示す斜視図である。リール装置503は、金属製のケース部材540と、そのケース部材540に収容される左・中・右の3つのリール541, 542, 543とを具備している。ケース部材540は、その内部に3つのリール541~543を回転可能に収容し、かつ該リール541~543の一部を前方に現出させるものとなっている。ケース部材540において上面部540aの前側端部には、上方に折り曲げて形成された支持固定部545が設けられ、下面部の前側端部には、下方に折り曲げて形成された支持固定部546が設けられている。これら支持固定部545, 546は、リール装置503をベース板502に取り付けるための取付手段を構成するものである。

30

【0175】

支持固定部545, 546にはそれぞれ左右2カ所に孔部545a, 545b, 546a, 546bが設けられており、本リール装置503のベース板502への取り付け固定は、各孔部545a, 545b, 546a, 546bに挿通させたネジをベース板502の上下のリール支持部材525, 526(孔部525a, 525b, 526a, 526b)に螺着させることにより行われている。

40

【0176】

図37等にて確認できるように、ケース部材540の上部には、リール装置503と主制御装置505などの制御系との電氣的な接続を行うためのリール中継基板548が設置されている。また、ケース部材540の下部には、面替えブロック6を床等に置く場合に床等との接触部となる突起549が左右2カ所に設けられている。

50

【0177】

各リール541～543の構成について周知であり、ここでは詳細な図示を省略するが、その構成を簡単に説明する。各リール541～543は、円筒状のかごを形成する円筒骨格部材と、その外周に巻回された帯状のベルトとを備えている。ベルトの外周面には、識別情報としての図柄が等間隔ごとに多数印刷されている（例えば21図柄）。各リール541～543の中央部には、駆動源としてのステッピングモータが設けられており、該ステッピングモータの駆動により各リール541～543が個別に、すなわちそれぞれ独立して回転駆動される。リール装置503には、その他の構成として、各リール541～543の回転位置を検出するためのリールインデックスセンサ（回転位置検出センサ）が設置されている。また、各リール541～543の内周側には、蛍光ランプ等よりなるバックライト（後方発光手段）が設けられており、このバックライトにより、リール外周面に付された各図柄が後方より明るく照らされるようになっている。バックライトの発光によって、リール外周面に付された各図柄の視認性の向上や、遊技に際し補助的な演出の多様化を図ることができる。

10

【0178】

（主制御装置505及び表示制御装置506等の説明）

次に、主制御装置505及び表示制御装置506の構成を図44を用いて説明する。図44は、ベース板502、主制御装置505及び表示制御装置506を分解して斜め後方から示す分解斜視図である。

【0179】

20

先ず、主制御装置505は、CPUやメモリ等の電子部品が実装された略横長四角状の主制御基板561と、この主制御基板561を収容するための略横長四角状のケース部材とから構成されている。ケース部材はケース台562とケースカバー563とからなる。ケース台562は、主制御基板561を収容する収容部562aを有している。ケース台562において、その各短辺部には同短辺部から長辺に沿う方向に突出するように取付部564、565が設けられている。両取付部564、565は、主制御装置505を上記ベース板502に取り付けるためのものであり、これら取付部564、565には、それぞれ短辺方向に貫通する孔部564a、565aが形成されている。また、ケース台562及びケースカバー563は、共に透明の合成樹脂材料によって成形されている。したがって、ケース部材に収容された主制御基板561を外側から視認することができる。主制御基板561は、電子部品が実装された実装面561aの裏面（つまり、半田面）をケース台562側に向けてケース台562に取り付けられ、それを覆うようにしてケースカバー563がケース台562に組み付けられている。また、ケース台562及びケースカバー563には、両者を連結する封印手段としての図示しない封印部（所謂カシメ部）が設けられている。封印部は、破壊等を伴うことでケース部材を開封可能とするものであり、開封後には破壊などがなされた部材が開封履歴として残るため、その開封履歴によって開封事実の確認が可能となっている。これにより、仮にケース部材が不正に開封された場合などにおいては、封印部の確認によって不正行為の発見が可能となる。

30

【0180】

次に、表示制御装置506について説明する。表示制御装置506は、CPUやメモリ等の電子部品が実装された略横長四角状の表示制御基板571と、この表示制御基板571を収容するための略横長四角状のケース部材とから構成されている。ケース部材はケース台572とケースカバー573とからなる。ケース台572は、表示制御基板571を収容する収容部572aを有している。収容部572aの長辺部の寸法はベース板502の下側開口部522の上辺長と概ね同じ大きさとなっている。ケース台572において、その長辺部の一方には同長辺部の両端部から長辺方向の側方に向けて突出するように取付部575、576が設けられている。両取付部575、576は、表示制御装置506を上記ベース板502に取り付けるためのものであり、これら取付部575、576には、2カ所ずつ短辺に沿う方向に貫通する孔部575a、575b、576a、576bが形成されている。また、ケース台572及びケースカバー573は、共に透明の合成樹脂材

40

50

料によって成形されている。したがって、ケース部材に收容された表示制御基板 571 を外部から視認することができる。表示制御基板 571 は、電子部品が実装された実装面 571a の裏側（つまり、半田面）をケース台 572 側に向けてケース台 572 に取り付けられ、それを覆うようにしてケースカバー 573 がケース台 572 に組み付けられている。

【0181】

次に上述した主制御装置 505 及び表示制御装置 506 のベース板 502 への取り付け構成について説明する。

【0182】

先ず、表示制御装置 506 は、リール装置 503 の上方の位置で、表示制御基板 571 の実装面 571a が上方を向き、且つその実装面 571a がベース板 502 の背面とほぼ垂直となるようにしてベース板 502 に取り付けられている。つまり、ケース台 572 の取付部 575、576 のうち、実装面 571a を上向けた場合に、右側に位置する取付部 575（以下、右取付部 575 と称する。）の孔部 575a、575b がベース板 502 の右固定部 528 の突起部 528a、528b にはめ込まれている。さらに、左側に位置する取付部 576（以下、左取付部 576 と称する。）の孔部 576a、576b が左固定部 529 の突起部 529a、529b にはめ込まれ、それにより、表示制御装置 506 がベース板 502 に取り付けられている。この場合、表示制御装置 506 の長辺側がベース板 502 への取付側となる。また、突起部 528a に形成されたネジ孔にネジが螺入されて右取付部 575 は右固定部 528 にネジ止めされている。なお、左固定部 529 の突起部 529a は、左取付部 576 の孔部 576a にはめ込まれた状態でも、左取付部 576 より後方に突出する。この突起部 529a の突出部分は、後述のように主制御装置 505 の取付に利用される。

【0183】

そして、表示制御装置 506 がベース板 502 に取付固定された状態で、主制御装置 505 は、主制御基板 561 の実装面 561a がベース板 502 の外方、つまりドアブロック 4 の開放先端側を向き、且つその実装面 561a がベース板 502 の背面とほぼ垂直となるようにしてベース板 502 に取り付けられている。詳細には、ケース台 562 の取付部 564、565 のうち、実装面 561a をドアブロック 4 の開放先端側に向けた場合に、上側に位置する取付部 564（以下、上取付部 564 と称する。）の孔部 564a に、表示制御装置 506 の左取付部 576 の孔部 576a から突出した左固定部 529 の突起部 529a がはめ込まれている。そして、下側に位置する取付部 565（以下、下取付部 565 と称する。）の孔部 565a に下固定部 530 の突起部 530a がはめ込まれ、それにより、主制御装置 505 がベース板 502 に取り付けられている。この場合、主制御装置 505 の長辺側がベース板 502 への取付側となる。なお、突起部 529a に形成されたネジ孔にネジが螺入されて表示制御装置 506 の左取付部 576 及び主制御装置 505 の上取付部 564 は左固定部 529 にネジ止めされている。さらに、突起部 530a に形成されたネジ孔にネジが螺入されて下取付部 565 は下固定部 530 にネジ止めされている。

【0184】

主制御装置 505 及び表示制御装置 506 は、図 45（面替えブロック 6 の背面図）に示すように、ベース板 502 に設けられている。つまり、主制御装置 505 はリール装置 503 からドアブロック 4 の開放先端側（図 45 では左側）の側方に寸法 D1 だけ離間して設けられている。また、表示制御装置 506 はリール装置 503 から上方に寸法 D2 だけ離間して設けられている。この寸法 D1 及び寸法 D2 は小さく、故に主制御装置 505 及び表示制御装置 506 は共にリール装置 503 の近傍に位置するといえる。また、リール 541～543 は上から下に回転するため、リール 541～543 の回転による振動としては、左右方向よりも上下方向の振動が生じやすい。このため、リール装置 503 の上方に配置された表示制御装置 506 は、リール装置 503 の側方に配置された主制御装置 505 よりもリール装置 503 の振動の影響を受け易い。故に、表示制御装置 506 は、

主制御装置 505 がリール装置 503 から離間する寸法 D1 よりも大きくリール装置 503 から離間して設けられている (D2 > D1)。

【0185】

パネル体 500 には、上記主制御装置 505 及び表示制御装置 506 が設けられる他に、液晶表示装置 504 も設けられている。液晶表示装置 504 は、液晶パネル 581 と、該液晶パネル 581 を駆動する液晶ドライバ 582 とにより構成されている。

【0186】

(面替えブロック 6 として完成状態の説明)

面替えブロック 6 の完成状態を図 36、図 37 を用いてあらためて説明する。面替えブロック 6 としては、前面枠 501 とベース板 502 とを一体化させたパネル体 500 に、背後からリール装置 503 が取り付けられ、その上方に液晶表示装置 504 が取り付けられている。そして、上記の如く主制御装置 505 及び表示制御装置 506 が取り付けられている。したがって、主制御装置 505 はリール装置 503 の側方に配置されており、表示制御装置 506 はリール装置 503 と液晶表示装置 504 との間に配置されている (図 45 参照)。

【0187】

面替えブロック 6 において、前面枠 501 の上側表示窓 513 からは液晶パネル 581 のパネル面全体が視認できる。また、同前面枠 501 の下側表示窓 514 からはリール装置 503 の各リール 541 ~ 543 の一部が視認できる。このとき、各リール 541 ~ 543 の外周に付された多数 (本実施の形態では 21 個) の図柄のうち、リール毎に 3 つずつの図柄が下側表示窓 514 を通じて視認できるようになっている。

【0188】

(払出ブロック 7 の説明)

次に、払出ブロック 7 について説明する。図 46 は払出ブロック 7 の斜視図、図 47 は払出ブロック 7 の背面図である。

【0189】

払出ブロック 7 は、合成樹脂材料にて一体成形された裏カバー部材 601 と、遊技球を払い出すための払出機構 602 とが一体化されることにより構成されている。裏カバー部材 601 は、略平坦状のベース部 603 と、後方 (遊技機 1 の後方) に突出し略直方体形状をなす保護カバー部 604 とを有する。保護カバー部 604 は左右及び上下の各面と背面とが閉鎖された形状をなし、少なくとも前記面替えブロック 6 のリール装置 503 を収容するのに十分な大きさを有する。なお図示は省略するが、保護カバー部 604 の背面には多数の通気孔が設けられている。

【0190】

払出機構 602 は、保護カバー部 604 を迂回するようにして裏カバー部材 601 のベース部 603 に取り付けられている。すなわち、裏カバー部材 601 の最上部には上方に開口したタンク 605 が設けられており、タンク 605 には遊技ホールの島設備から供給される遊技球が逐次補給される。タンク 605 の下方には、例えば横方向 2 列 (2 条) の球通路を有し下流側に向けて緩やかに傾斜するタンクレール 606 が連結され、タンクレール 606 の下流側には上下方向に延びるケースレール 607 が連結されている。

【0191】

払出装置 608 はケースレール 607 の最下流部に設けられ、受皿ブロック 5 に設けた払出制御装置 157 からの制御信号により払出モータ 609 が駆動されて必要個数の遊技球の払出が適宜行われる。払出装置 608 より払い出された遊技球は払出通路 (図示略) 等を通じて前記上皿 151 に供給される。図示は省略するが、ケースレール 607 の上流部には、タンク 605 やタンクレール 606 から供給される遊技球の有無を検出するタンク球無しセンサが設けられている。また、払出装置 608 には、払出モータ 609 の回転を検出する払出回転センサと、払い出される遊技球数をカウントする払出カウントスイッチとが設けられている。

【0192】

10

20

30

40

50

払出機構 6 0 2 には、払出制御装置 1 5 7 から払出装置 6 0 8 への払出指令の信号を中継する払出中継基板 6 1 1 が設置されている。その他、払出機構 6 0 2 には、外部より主電源を取り込むための電源スイッチ基板（図示略）が設置されている。

【 0 1 9 3 】

払出機構 6 0 2 におけるタンクや通路部材類はいずれも導電性を有する合成樹脂材料、例えば導電性ポリカーボネート樹脂にて成形され、その一部にてアースされている。これにより、遊技球の帯電によるノイズの発生が抑制されるようになっている。

【 0 1 9 4 】

裏カバー部材 6 0 1 には、背面側から見て右端部に上下一対の支軸 6 2 1 a , 6 2 1 b が設けられている。この支軸 6 2 1 a , 6 2 1 b は、払出ブロック 7 をドアブロック 4 に回動可能に支持するための支持手段を構成するものであり、この支軸 6 2 1 a , 6 2 1 b がドアブロック 4 に設けられた軸金具 1 1 0 , 1 1 1 の軸受け部 1 1 0 a , 1 1 1 b の軸孔（図 8 等参照）に差し入れられるようになっている。なお、ドアブロック 4 側の軸受け部 1 1 0 a , 1 1 1 b と払出ブロック 7 側の支軸 6 2 1 a , 6 2 1 b とが前記図 6 に示す「払出ブロック 7 用の支持手段 M 3 , M 4 」に相当する。

【 0 1 9 5 】

また、裏カバー部材 6 0 1 には、払出ブロック 7 を面替えブロック 6 に対して固定するための装着固定手段（ロック部材 6 2 5 a , 6 2 5 b ）が複数箇所に設けられるとともに、同払出ブロック 7 をドアブロック 4 に装着した状態で固定するための装着固定手段（ロック部材 6 2 7 a , 6 2 7 b , 6 2 7 c , 6 2 7 d ）が複数箇所に設けられている。

【 0 1 9 6 】

すなわち、面替えブロック 6 用のロック部材 6 2 5 a , 6 2 5 b は、前記面替えブロック 6 に設けた金具板 5 3 5 の鉤部 5 3 6 a , 5 3 6 b （図 3 7 参照）に対応する位置に計 2 カ所設けられ、それぞれ各鉤部 5 3 6 a , 5 3 6 b に係止される係止片を有して構成されている。この場合、鉤部 5 3 6 a , 5 3 6 b に対して各ロック部材 6 2 5 a , 6 2 5 b の係止片を係止状態にすることで面替えブロック 6 に払出ブロック 7 が装着固定され、その係止状態を解除することで面替えブロック 6 から払出ブロック 7 が取り外しできるようになっている。

【 0 1 9 7 】

また、ドアブロック 4 用のロック部材 6 2 7 a ~ 6 2 7 d は、前記前扉体 1 1 （ドアブロック 4 ）の鉤金具 1 3 7 a ~ 1 3 7 d （図 8 参照）に対応する位置に計 4 カ所設けられ、それぞれ各鉤金具 1 3 7 a ~ 1 3 7 d に係止される係止片を有して構成されている。この場合、鉤金具 1 3 7 a ~ 1 3 7 d に対して各ロック部材 6 2 7 a ~ 6 2 7 d の係止片を係止状態にすることでドアブロック 4 に払出ブロック 7 が装着固定され、その係止状態を解除することでドアブロック 4 から払出ブロック 7 が取り外しできるようになっている。

【 0 1 9 8 】

（面替えユニット 6 の交換作業の説明）

上述したように、面替えブロック 6 は交換可能ユニットとなっており、ここでは遊技ホールでの機種入替時などにおける面替えブロック 6 の交換作業について説明する。

【 0 1 9 9 】

まずは規定の操作キーを用いて外枠 2 に対するドアブロック 4 の施錠状態を解除し、ドアブロック 4 を手前側に開放する。このとき、ドアブロック 4 と共に面替えブロック 6 や払出ブロック 7 が一体動作する。これが図 3 に示す状態である。その後、払出ブロック 7 の裏カバー部材 6 0 1 に設けたロック部材 6 2 7 a ~ 6 2 7 d を指等でアンロック状態に操作することで、ドアブロック 4 に対して面替えブロック 6 と払出ブロック 7 とを回動可能（開放動作可能）とし、更にロック部材 6 2 5 a , 6 2 5 b を指等でアンロック状態に操作することで、面替えブロック 6 に対して払出ブロック 7 を回動可能（開放動作可能）とする。この状態で面替えブロック 6 と払出ブロック 7 とを各々回動させると図 4 に示す状態となる。なおこの状態で、各ブロック間の電気配線等を適宜外しておく。

【 0 2 0 0 】

そして、図 4 の状態で、面替えブロック 6 を上方に持ち上げるようにしてドアブロック 4 から取り外す。このとき、ドアブロック 4 側に設けられた軸金具 1 1 0 , 1 1 1 の軸受け部 1 1 0 b , 1 1 1 a から面替えブロック 6 側に設けられた支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b が引き抜かれ、ドアブロック 4 から面替えブロック 6 が分離される。

【 0 2 0 1 】

その後、新しい面替えブロック 6 を取り外し時と逆の作業手順で装着する。すなわち、新しい面替えブロック 6 をドアブロック 4 に取り付け、電気配線等の接続を適宜実行する。そして、面替えブロック 6 と払出ブロック 7 とを重ねた状態でロック部材 6 2 5 a , 6 2 5 b を指等でロック状態に操作する。また、面替えブロック 6 と払出ブロック 7 との一体物をドアブロック 4 に重ね、その状態でロック部材 6 2 7 a ~ 6 2 7 d を指等でロック状態に操作する。最後にドアブロック 4 を外枠 2 に対して閉じると、遊技機 1 の入替が完了する。

10

【 0 2 0 2 】

上記の面替えブロック 6 の交換作業に際し、操作キーによるドアブロック 4 の施錠解除以外は何ら特別な工具等を必要することはなく、交換作業の容易化が図られている。

【 0 2 0 3 】

(電氣的構成の説明)

次に、本遊技機 1 の電氣的構成について、図 4 8 のブロック図に基づいて説明する。図 4 8 では、電氣的な各構成要素を、ドアブロック 4 、受皿ブロック 5 、面替えブロック 6 及び払出ブロック 7 に分け示している。また、電源装置 1 5 6 から供給される電力の供給ラインを二重線矢印で示し、信号ラインを実線矢印で示す。

20

【 0 2 0 4 】

図 4 8 において、主制御装置 5 0 5 、表示制御装置 5 0 6 及び払出制御装置 1 5 7 は、何れも CPU 、 ROM 、 RAM 等を有してなる論理演算装置にて構成されており、各制御装置の CPU は ROM 内に予め記憶されている演算プログラムに基づいて遊技に関する各種制御を実行する。これら各制御装置は、信号ラインや中継基板等を介して接続されており、遊技に際しては制御装置間におけるコマンド等の授受によって遊技の進行が行われる。

【 0 2 0 5 】

詳しくは、面替えブロック 6 において、主制御装置 5 0 5 は遊技を統括制御する制御装置であり、主制御装置 5 0 5 には、リール中継基板 5 4 8 を介してリール装置 5 0 3 と外部端子板 5 3 7 とが接続されるとともに、サブ中継基板 7 0 1 を介して表示制御装置 5 0 6 が接続されている。リール装置 5 0 3 では、主制御装置 5 0 5 からの指令に基づいて各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 の回転が制御される。外部端子板 5 3 7 は遊技ホール等に設置されるホール管理装置（いわゆる、ホールコンピュータ）に接続される中継装置であり、この外部端子板 5 3 7 を通じて都度の遊技状況（遊技回数、当り回数等々）がホール管理装置に出力される。表示制御装置 5 0 6 は、主制御装置 5 0 5 から毎遊技の補助演出に関する各種コマンドを入力し、そのコマンドに応じて液晶表示装置 5 0 4 による補助演出を実施するとともに、ドアブロック 4 に設けたドア上部中継基板 7 0 3 を介してスピーカ類やランプ類の駆動を制御する。

30

40

【 0 2 0 6 】

図示等による説明は省略したが、本遊技機 1 には、外枠 2 に対して遊技機本体 3 （ドアブロック 4 ）が開放されたことを検知するためのドアスイッチが設けられており、このドアスイッチの検出信号はリール中継基板 5 4 8 を介して主制御装置 5 0 5 に入力されるようになっている。

【 0 2 0 7 】

なお、主制御装置 5 0 5 において、RAM の一部には本遊技機 1 の電源遮断後においても電源装置 1 5 6 からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）することが可能なバックアップエリアが設けられている。したがって、停電などの発生により電源が遮断された場合には、電源遮断時の各種データが RAM のバックアップエリアに記

50

憶保持され、次回の電源投入時（停電解消による電源投入を含む）において遊技機 1 の状態が電源遮断前の状態に復帰できるようになっている。

【0208】

また、受皿ブロック 5 には受皿ブロック中継基板 702 が設けられており、この受皿ブロック中継基板 702 を介して前記面替えブロック 6 の主制御装置 505 と、本受皿ブロック 5 の払出制御装置 157 や取込ユニット 153 とが接続されている。加えて、受皿ブロック中継基板 702 を介して前記面替えブロック 6 の主制御装置 505 と、ドアブロック 4 のドアブロック中継基板 704 とが接続されている。

【0209】

この場合、ドアブロック 4 の各種操作部材（ベットスイッチ 38、スタートレバー 33、ストップスイッチ 35～37）が遊技者により操作されると、これら操作部材に内蔵された操作検出部によって当該操作が検出され、都度の操作検出信号がドアブロック中継基板 704 及び受皿ブロック中継基板 702 を介して主制御装置 505 に入力される。例えば、ベットスイッチ 38 の操作に伴う操作検出信号が主制御装置 505 に入力された場合、主制御装置 505 は、受皿ブロック中継基板 702 を介して取込ユニット 153 に取込制御信号を出力する。この取込制御信号によって取込ユニット 153 の各取込装置 301～303 におけるソレノイド 325 が駆動され、遊技球の取込が順次行われる。遊技球取込時における遊技球取込検出センサ（センサユニット 370、下流側取込センサ 380）の検出信号は、やはり受皿ブロック中継基板 702 を介して主制御装置 505 に入力される。

10

20

【0210】

また、リール装置 503 の各リールの停止図柄（ドアブロック 4 の視認窓 21 から視認できる上下 3 個分の図柄、及び各図柄の組み合わせ）が所定の遊技球払出役（小役図柄、ボーナス図柄）に合致する場合には、主制御装置 505 は、都度の成立役に応じて遊技球の払出個数を設定し、その払出個数に対応する払出制御信号を受皿ブロック中継基板 702 を介して払出制御装置 157 に出力する。これにより、払出制御装置 157 によって払出装 608（払出モータ 609）が駆動され、遊技球の払出が行われる。

【0211】

なお、払出制御装置 157 において、RAM の一部には主制御装置 505 の RAM と同様に、本遊技機 1 の電源遮断後においても電源装置 156 からバックアップ電圧が供給されてデータを保持（バックアップ）することが可能なバックアップエリアが設けられている。したがって、停電などの発生により電源が遮断された場合には、電源遮断時の各種データが RAM のバックアップエリアに記憶保持され、次回の電源投入時（停電解消による電源投入を含む）において遊技機 1 の状態が電源遮断前の状態に復帰できるようになっている。

30

【0212】

図示は省略しているが、払出制御装置 157 には、ドアブロック 4 に設けた情報表示部 51 の表示内容を管理する情報表示基板や、球貸しユニットから貸し出される遊技球の払出等を管理する球貸しユニット接続基板等が接続されている。

【0213】

電源装置 156 は外部より供給される交流 24 ボルト電源を取り込み、各種スイッチやモータ等を駆動するための +12V 電源、ロジック用の +5V 電源、RAM バックアップ用のバックアップ電源などを生成し、これら +12V 電源、+5V 電源及びバックアップ電源を主制御装置 505 や払出制御装置 157 等に対して供給する。

40

【0214】

（遊技の概略説明）

次に、上記構成の遊技機 1 について、遊技者により行われる遊技の概要を簡単に説明する。

【0215】

遊技の開始に際し、上皿 151 に遊技球が十分にある状況において遊技者によりベット

50

スイッチ 3 8 が押圧操作されると、取込ユニット 1 5 3 の各取込装置 3 0 1 ~ 3 0 3 において各々遊技球の取込が行われる。そして、ベット数に対応する所定個数（例えば 1 5 個）の遊技球の取込が完了した後、スタートレバー 3 3 が操作されると、リール装置 5 0 3 の各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 が一斉に又は所定順序で回転し始める。このスタートレバー 3 3 の操作時には、主制御装置 5 0 5 において小役、再遊技（リプレイ）、ボーナスゲーム等に関する内部抽選が行われる。各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 の回転時には、その外周面に付された図柄が視認窓 2 1 を通じて上から下へと移動するような態様で視認される。

【 0 2 1 6 】

その後、遊技者によりストップスイッチ 3 5 ~ 3 7 が任意の順序で操作されると、各ストップスイッチ 3 5 ~ 3 7 の操作タイミングに合わせて各々対応するリール 5 4 1 ~ 5 4 3 の回転が停止される。このとき、各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 の停止時には、所定の図柄を特定位置に停止させるような引き込み停止制御が適宜実施される。例えば、内部抽選により小役等が成立している場合、その小役等が成立する停止図柄の組み合わせとなるように、ストップスイッチ 3 5 ~ 3 7 の操作タイミングから最大 4 図柄分、停止図柄がスライド可能となっている（停止図柄のスベリが行われる）。ちなみに、各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 の回転開始後、ストップスイッチ 3 5 ~ 3 7 の操作がなされないまま規定時間を経過した場合にはその時点で各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 の回転が停止される。

【 0 2 1 7 】

各リール 5 4 1 ~ 5 4 3 の停止時（図柄停止時）において、その停止図柄及びその組み合わせが小役図柄やボーナス図柄に合致する場合、その際の成立役に応じた数の遊技球が払い出される。この場合、払出装置 6 0 8 の駆動により上皿 1 5 1 に遊技球が払い出される。

【 0 2 1 8 】

以上詳述した本実施の形態によれば、以下の優れた効果を奏する。

【 0 2 1 9 】

本遊技機 1 の遊技内容を決定する主要部品である、リール装置 5 0 3、液晶表示装置 5 0 4、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 をパネル体 5 0 0 に設けて交換ユニットとしての面替えブロック 6 を構成した。これにより、遊技ホール等における機種入替において、面替えブロック 6 を交換することで機種変更が可能となり、その交換作業性の向上を図ることができる。

【 0 2 2 0 】

面替えブロック 6 において、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 を、リール装置 5 0 3 と接触しないようにパネル体 5 0 0 に設けた。リール装置 5 0 3 は、回転するリール 5 4 1 ~ 5 4 3 やリール 5 4 1 ~ 5 4 3 を回転駆動させるステッピングモータによって振動する。仮に主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 がリール装置 5 0 3 のケース部材 5 4 0 に接触する構成であれば、その振動によって主制御装置 5 0 5 や表示制御装置 5 0 6 に不具合が生じるおそれがある。また、この振動から主制御装置 5 0 5 や表示制御装置 5 0 6 を保護するために、緩衝部材を設ける構成が考えられる。ところが、この場合、面替えブロック 6 を構成するためのコストがアップするといった問題が生じる。この点、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 をリール装置 5 0 3 に非接触にパネル体 5 0 0 に設けたことで、他の部材（緩衝部材など）を設けることなくリール装置 5 0 3 の振動から保護することができる。

【 0 2 2 1 】

また、パネル体 5 0 0 に上側リール支持部材 5 2 5 及び下側リール支持部材 5 2 6 を設け、リール装置 5 0 3 を上側リール支持部材 5 2 5 及び下側リール支持部材 5 2 6 を介してパネル体 5 0 0 に設ける構成とした。これにより、リール装置 5 0 3 がパネル体 5 0 0 に直接取り付けられる場合と比して、パネル体 5 0 0 に伝わるリール装置 5 0 3 の振動が取付部材に吸収される分だけ小さくなる。さらに主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 を、リール装置 5 0 3 と非接触に設けることに加え、上側リール支持部材 5 2 5 及び下側リール支持部材 5 2 6 と非接触にパネル体 5 0 0 に設けた。この主制御装置 5 0 5 及び

表示制御装置 5 0 6 をリール装置 5 0 3 及びリール支持部材 5 2 5 , 5 2 6 と非接触に設けたことと、パネル体 5 0 0 にリール支持部材 5 2 5 , 5 2 6 を設けたこととが相まって、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 に及ぼす振動による影響が少なくなる。この結果、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 をリール装置 5 0 3 の振動から一層保護することができる。

【 0 2 2 2 】

また、主制御装置 5 0 5 や表示制御装置 5 0 6 をパネル体 5 0 0 に取り付けるための右固定部 5 2 8、左固定部 5 2 9、下固定部 5 3 0 を、パネル体 5 0 0 の右枠部 5 2 3 と左枠部 5 2 4 に設けた。パネル体 5 0 0 の右枠部 5 2 3 は面替えブロック 6 をドアブロック 4 に対して回動可能に支持する支軸部材（支持金具 5 3 3 と支軸 5 3 4 a , 5 3 4 b ）が設けられる部位である。また、左枠部 5 2 4 は面替えブロック 6 に払出ブロック 7 を閉状態に固定する固定部材（金具板 5 2 5 と鉤部 5 3 6 a , 5 3 6 b ）が設けられる部位である。このため、右枠部 5 2 3 には右柱部材 5 3 1 には強度が要求され、故にその剛性が高められている。これにより、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 をリール装置 5 0 3 と非接触に設けたことと、右枠部 5 2 3 や左枠部 5 2 4 に主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 を設けたこととが相まって、リール装置 5 0 3 からの振動による影響が少なくなる。この結果、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 をリール装置 5 0 3 の振動から一層保護することができる。

【 0 2 2 3 】

また、主制御基板 5 6 1 をケース部材（ケース台 5 6 2 とケースカバー 5 6 3 ）に収容して主制御装置 5 0 5 を構成し、表示制御基板 5 7 1 をケース部材（ケース台 5 7 2 とケースカバー 5 7 3 ）に収容して表示制御装置 5 0 6 を構成した。そして、主制御基板 5 6 1 の実装面 5 6 1 a 及び表示制御基板 5 7 1 の実装面 5 7 1 a が共にベース板 5 0 2 の背面とほぼ垂直となるように、主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 をベース板 5 0 2 に取り付けた。これにより、ベース板 5 0 2 に主制御装置 5 0 5 及び表示制御装置 5 0 6 がコンパクトに取り付けられるため、面替えブロック 6 をコンパクトにすることができる。

【 0 2 2 4 】

また、主制御基板 5 6 1 を収容するケース台 5 6 2 及びケースカバー 5 6 3 を透明部材で構成した。そして、主制御装置 5 0 5 を、リール装置 5 0 3 よりもドアブロック 4 の開放先端側の位置であり、且つ主制御基板 5 6 1 の実装面 5 6 1 a が開放先端側を向くようにしてパネル体 5 0 0 に設けた。主制御装置 5 0 5 は、遊技を統括制御する制御装置である。このため、主制御装置 5 0 5 は不正の対象となり易い。したがって、主制御装置 5 0 5 を本実施の形態のようにパネル体 5 0 0 に設けることにより、ドアブロック 4 を開放した場合に、主制御装置 5 0 5 が手前側に位置すると共に、実装面 5 6 1 a が手前側に位置する。これにより、主制御装置 5 0 5 の不正確認を容易に行うことができる。

【 0 2 2 5 】

また、主制御装置 5 0 5 を略横長四角状に形成（主制御基板 5 6 1 とケース部材とを略横長四角状に形成）し、その長辺側がパネル体 5 0 0 （ベース板 5 0 2 ）への取付側とした。これにより、面替えブロック 6 の奥行き方向の寸法が大きくなることを防ぐことができる。つまり、仮に、主制御装置 5 0 5 の短辺側がパネル体 5 0 0 への取付側となる構成であれば、主制御装置 5 0 5 の後端部がリール装置 5 0 3 の背面よりも後方に位置する場合があります。この場合、面替えブロック 6 の奥行き方向の寸法が大きくなり、この面替えブロック 6 が設けられた遊技機を遊技ホールの島設備に設置する場合、その設置が困難となる、或いは島設備と干渉してしまうといった問題が生じるおそれがある。この点、本実施の形態では、主制御装置 5 0 5 の長辺側がパネル体 5 0 0 への取付側となるため、前記問題を解消することができる。

【 0 2 2 6 】

また、表示制御基板 5 7 1 を収容するケース台 5 7 2 及びケースカバー 5 7 3 を透明部材で構成した。そして、表示制御装置 5 0 6 を、リール装置 5 0 3 の上方に位置であり、

且つ表示制御基板 571 の実装面 571a が上方を向くようにしてパネル体 500 に設けた。これにより、表示制御装置 506 がリール装置 503 の影に隠れてその視認性が損なわれることを防ぐことができる。故に、表示制御装置 506 の不正確認を容易に行うことができる。

【0227】

また、表示制御装置 506 を略横長四角状に形成（表示制御基板 571 とケース部材とを略横長四角状に形成）し、その長辺側がパネル体 500（ベース板 502）への取付側とした。これにより、面替えブロック 6 の奥行き方向の寸法が大きくなることを防ぐことができる。つまり、仮に、表示制御装置 506 の短辺側がパネル体 500 への取付側となる構成であれば、表示制御装置 506 の後端部がリール装置 503 の背面よりも後方に位置する場合が起こり得る。この場合、面替えブロック 6 の奥行き方向の寸法が大きくなり、この面替えブロック 6 が設けられた遊技機を遊技ホールの島設備に設置する場合、その設置が困難となる、或いは島設備と干渉してしまうといった問題が生じるおそれがある。この点、本実施の形態では、表示制御装置 506 の長辺側がパネル体 500 への取付側となるため、前記問題を解消することができる。

10

【0228】

面替えブロック 6 において、液晶表示装置 504 をリール装置 503 の上方に配置し、表示制御装置 506 をリール装置 503 と液晶表示装置 504 との間に配置した。これにより、液晶表示装置 504 と表示制御装置 506 とが近い位置関係となる。液晶表示装置 504 は表示制御装置 506 によって制御される。このため、液晶表示装置 504 と表示制御装置 506 とを電氣的に接続する配線を簡易なものにすることができる。

20

【0229】

さらに、主制御装置 505 をリール装置 503 の側方（ドアブロック 4 の開放先端側の側方）に配置した。これにより、主制御装置 505 とリール装置 503 とが近い位置関係となる。リール装置 503 は主制御装置 505 によって制御される。このため、リール装置 503 と主制御装置 505 とを電氣的に接続する配線を簡易なものにすることができる。

【0230】

面替えブロック 6 において、パネル体 500 の前面枠 501（窓枠部 512）の前面（表示窓 513，514 の周囲領域）を装飾領域 F とし、この装飾領域 F に装飾部材を設けた。これにより、面替えブロック 6 の交換によって装飾部材もまとめて交換することができる。

30

【0231】

なお、以上説明した実施の形態の他、例えば次のように実施してもよい。

【0232】

（a）上記実施の形態では、面替えブロック 6 において、主制御装置 505 をリール装置 503 から側方（ドアブロック 4 の開放先端側の側方）に寸法 D1 だけ離間して配置すると共に、表示制御装置 506 をリール装置 503 から上方に寸法 D2 だけ離間して配置したが、これを変更しても良い。例えば、主制御装置 505 を表示制御装置 506 の位置、つまり、リール装置 503 から上方に寸法 D2 だけ離間して配置し、これに伴って表示制御装置 506 をリール装置 503 の側方（ドアブロック 4 の開放先端側の側方）に寸法 D1 だけ離間した位置に配置する構成である。この構成であっても、主制御装置 505 及び表示制御装置 506 を、リール装置 503 の振動から保護することができる。さらに、本実施の形態と同様に、ドアブロック 4 を開放した場合における主制御装置 505 及び表示制御装置 506 の視認性を確保できる。これにより、主制御装置 505 及び表示制御装置 506 の不正確認を容易に行うことができる。

40

【0233】

（b）上記実施の形態では、面替えブロック 6 において、表示制御装置 506 をリール装置 503 から上方に寸法 D2 だけ離間して配置したが、これを変更しても良い。例えば、ドアブロック 4 の回動軸側であって、リール装置 503 の側方に表示制御装置 506 を

50

配置しても良い。但し、この場合、表示制御装置 506 をリール装置 503 から離間して配置する。これにより、表示制御装置 506 をリール装置 503 の振動から保護することができる。

【0234】

(c) 上記実施の形態では、面替えブロック 6 において、パネル体 500 に上側リール支持部材 525 及び下側リール支持部材 526 を設け、その上側リール支持部材 525 及び下側リール支持部材 526 にリール装置 503 を取り付けすることでリール装置 503 がパネル体 500 に設けられる構成としたが、リール装置 503 をパネル体 500 に直接取り付けられる構成であっても良い。この場合でも、主制御装置 505 及び表示制御装置 506 はリール装置 503 と非接触にパネル体 500 に設けられるため、リール装置 503 の振動から保護することができる。但し、リール装置 503 の振動から主制御装置 505 及び表示制御装置 506 を一層保護するならば、上記実施の形態のように上側リール支持部材 525 や下側リール支持部材 526 といった支持部材を設ける構成が好適である。

10

【0235】

(d) 上記実施の形態では、主制御装置 505 を略横長四角状に形成したが、これを変更し、略正形状に形成しても良い。但し、この主制御装置 505 をパネル体 500 (ベース板 502) に取り付けただけの場合に、主制御装置 505 の後端部がリール装置 503 の背面よりも後方に突出しないように主制御装置 505 の辺寸法を設定する必要がある。

【0236】

また、上記実施の形態では、主制御装置 505 を略横長四角状に形成し、その長辺側をパネル体 500 への取付側としたが、これを変更してその短辺側をパネル体 500 への取付側としても良い。但し、この場合、長辺寸法は、主制御装置 505 の後端部がリール装置 503 の背面より後方に位置しないものであることが好ましい。

20

【0237】

(e) 上記実施の形態では、表示制御装置 506 を略横長四角状に形成したが、これを変更し、正形状に形成しても良い。但し、この表示制御装置 506 をパネル体 500 に取り付けただけの場合に、表示制御装置 506 の後端部がリール装置 503 の背面よりも後方に突出しないように表示制御装置 506 の辺寸法を設定する必要がある。

【0238】

また、上記実施の形態では、表示制御装置 506 を略横長四角状に形成し、その長辺側をパネル体 500 への取付側としたが、これを変更してその短辺側をパネル体 500 への取付側としても良い。但し、この場合、長辺寸法は、表示制御装置 506 の後端部がリール装置 503 の背面より後方に位置しないものであることが好ましい。

30

【0239】

(f) 上記実施の形態では、主制御装置 505 がリール装置 503 を回転制御する構成としたが、これを変更して表示制御装置 506 がリール装置 503 を回転制御する構成であっても良い。これにより、主制御装置 505 の処理負荷を軽減することができる。また、この構成の場合であっても、表示制御装置 506 はリール装置 503 と液晶表示装置 504 との間に位置するため、表示制御装置 506 とリール装置 503 とは近い位置関係となっている。これにより、表示制御装置 506 とリール装置 503 とを電氣的接続するための配線を簡易なものにすることができる。

40

【0240】

(g) 上記実施の形態では、補助演出装置として液晶表示装置 504 を用いたが、これに代えて、ドットマトリックス、LED、エレクトロルミネセンス (EL)、蛍光表示管等の他の電氣的表示装置や、前記リール装置 503 とは異なる第 2 のリール装置などを用いても良い。この場合、前記補助演出装置を制御する表示制御装置をリール装置 503 から離間して配置することで、この表示制御装置をリール装置 503 の振動から保護することができる。

【0241】

(h) 上記実施の形態におけるスタートレバー 33 等に代表される操作手段や、獲得数

50

表示部 5 3 等に代表される情報表示手段の形態や配置はあくまでも一例に過ぎない。例えばスタートレバー 3 3 を右側に配置したり、レバーに代えてボタンにしたりする等、適宜変更することは何ら差し支えない。

【 0 2 4 2 】

(i) 上記実施の形態における遊技球の、1ベット当りの投入数(所定数)、最大投入数、払出個数等はあくまでも例示であって、上記数値に特に限定されるものではない。

【 0 2 4 3 】

(j) 本遊技機 1 は、必ずしもパチンコ島に設置されるものでなくとも良い。この場合、外枠を要件とせず、筐体等に遊技機本体 3 が支持される構成であっても良い。また、遊技球はパチンコ球に限られず、パチンコ規格以外の金属球であっても良い。金属球以外、例えばセラミック球であっても良い。

10

【図面の簡単な説明】

【 0 2 4 4 】

【図 1】一実施の形態における遊技機の全体を示す斜視図である。

【図 2】遊技機の正面図である。

【図 3】遊技機の内部開放状態を示す斜視図である。

【図 4】遊技機の内部開放状態を示す斜視図である。

【図 5】遊技機の背面図である。

【図 6】遊技機本体とその開閉動作の概要を模式的に示す図である。

【図 7】ドアブロックと受皿ブロックとを分離して示す斜視図である。

20

【図 8】ドアブロックと受皿ブロックとを分離して示す斜視図である。

【図 9】ドアブロックを構成する前扉体と内枠とを分離して示す斜視図である。

【図 10】ドアブロックを構成する前扉体と内枠とを分離して示す斜視図である。

【図 11】受皿ブロックの正面図である。

【図 12】受皿ブロックの平面図である。

【図 13】受皿ブロックの背面図である。

【図 14】受皿ブロックの分解斜視図である。

【図 15】受皿ブロックの分解斜視図である。

【図 16】上皿とそれに付随して設けられる部材とを示す分解斜視図である。

【図 17】上皿の平面図である。

30

【図 18】排出操作伝達装置の構成を示す斜視図である。

【図 19】排出操作伝達装置の構成を示す平面図である。

【図 20】球通路形成体とそれに付随して設けられる部材とを示す分解斜視図である。

【図 21】球通路形成体とそれに付随して設けられる部材とを示す分解斜視図である。

【図 22】球留め装置の単体の構成を示す平面図である。

【図 23】球留め装置を球通路形成体に装着した状態を示す図である。

【図 24】球留め装置の操作状態と遊技球の流れとの関係を示す図である。

【図 25】取込ユニットの斜視図である。

【図 26】取込ユニットの斜視図である。

【図 27】取込ユニットの分解斜視図である。

40

【図 28】取込ユニットの分解斜視図である。

【図 29】取込装置の内部構造を示す断面図である。

【図 30】取込装置の分解斜視図である。

【図 31】取込装置の分解斜視図である。

【図 32】排出ゲート部材の構成を示す斜視図である。

【図 33】排出ゲート部材の動作を説明するための説明図である。

【図 34】取込装置の動作説明図である。

【図 35】払出制御ユニットの分解斜視図である。

【図 36】面替えブロックの斜視図である。

【図 37】面替えブロックの斜視図である。

50

【図 3 8】面替えブロックの正面図である。

【図 3 9】面替えブロックの分解斜視図である。

【図 4 0】面替えブロックの分解斜視図である。

【図 4 1】前面枠の構成を示す斜視図である。

【図 4 2】ベース板の構成を示す斜視図である。

【図 4 3】リール装置の構成を示す斜視図である。

【図 4 4】ベース板に取り付けられる主制御装置及び表示制御装置を分解して後方から示した分解斜視図である。

【図 4 5】面替えブロックの背面図である。

【図 4 6】払出ブロックの斜視図である。

10

【図 4 7】払出ブロックの背面図である。

【図 4 8】遊技機の電氣的構成を説明するためのブロック図である。

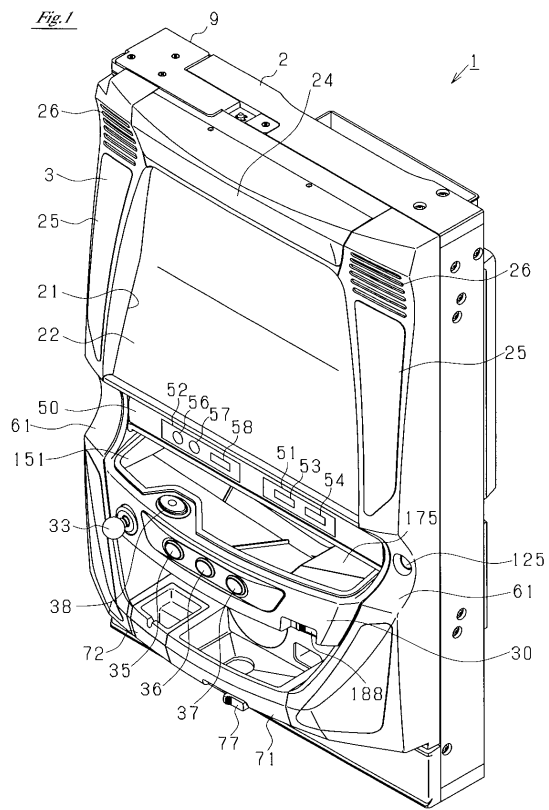
【符号の説明】

【 0 2 4 5 】

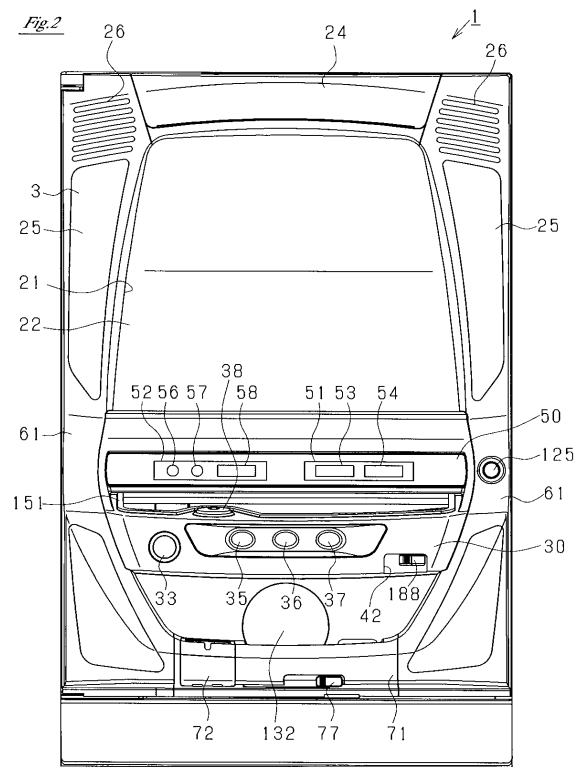
4 ... 扉体としてのドアブロック、6 ... ユニットとしての面替えブロック、2 2 ... 透視窓としての透明パネル、3 3 ... 始動操作手段としてのスタートレバー、3 5 ~ 3 7 ... 停止操作手段としてのストップスイッチ、3 8 ... 取込操作手段としてのベットスイッチ、7 1 ... 貯留部としての下皿、1 5 1 ... 貯留部としての上皿、1 5 3 ... 取込手段としての取込ユニット、5 0 0 ... パネル体、5 0 3 ... リール装置、5 0 4 ... 表示装置としての液晶表示装置、5 0 5 ... 制御装置としての主制御装置、5 0 6 ... 表示制御装置、5 1 3 ... 表示用開口部としての上側表示窓、5 1 4 ... 開口部としての下側表示窓、5 2 1 ... 表示用開口部としての上側開口部、5 2 2 ... 開口部としての下側開口部、5 2 3 ... 右枠部、5 2 4 ... 左枠部、5 2 5 ... 取付部材としての上側リール支持部材、5 2 6 ... 取付部材としての下側リール支持部材、5 3 3 ... 支軸部材としての支持金具、5 3 4 a , 5 3 4 b ... 支持部材としての支軸、5 3 5 ... 固定部材としての金具板、5 3 6 a , 5 3 6 b ... 固定部材としての鉤部、5 4 0 ... ケース部材、5 4 1 ~ 5 4 3 ... リール、5 6 1 ... 制御基板としての主制御基板、5 6 1 a ... 基板面としての実装面、5 6 2 , 5 6 3 ... 収容部材を構成するケース台とケースカバー、5 7 1 ... 表示制御基板、5 7 1 a ... 基板面としての実装面、5 7 2 , 5 7 3 ... 表示用収容部材を構成するケース台とケースカバー。

20

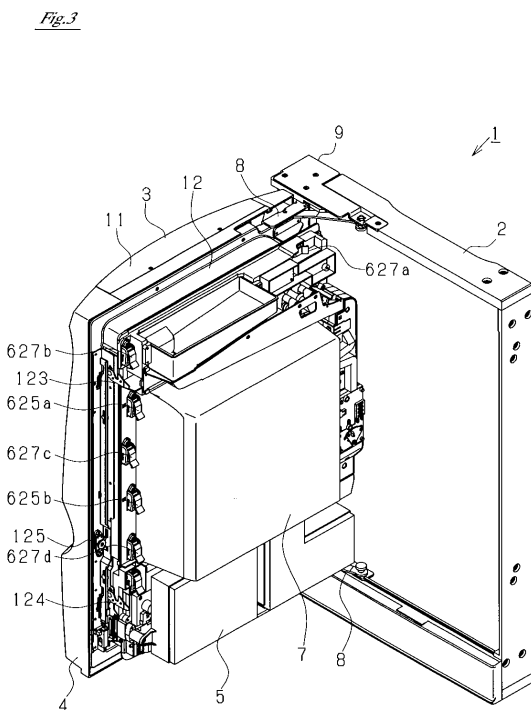
【図 1】



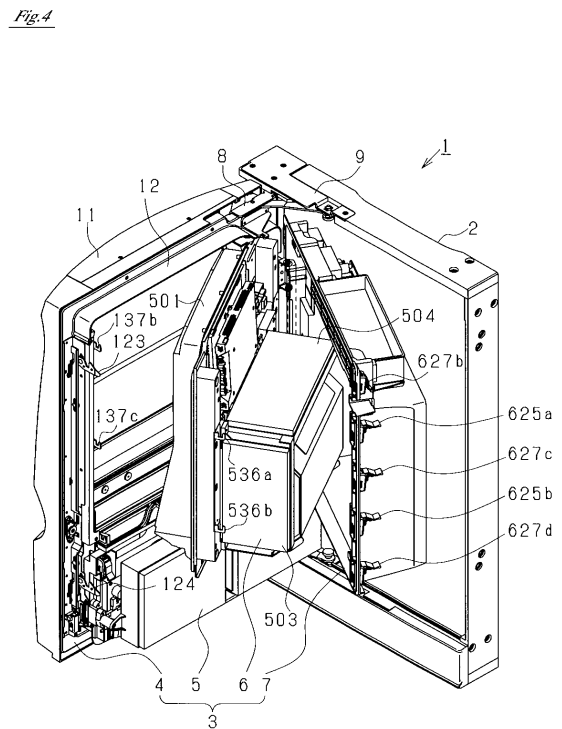
【図 2】



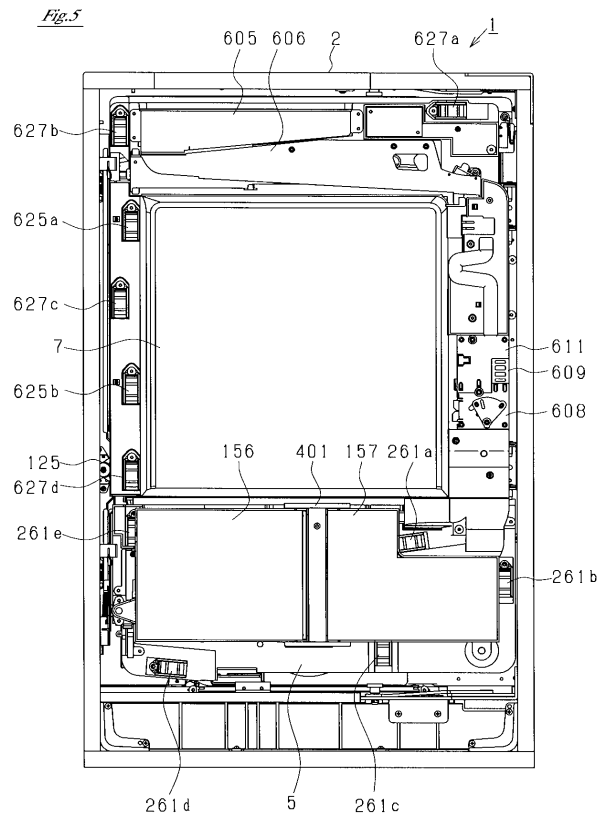
【図 3】



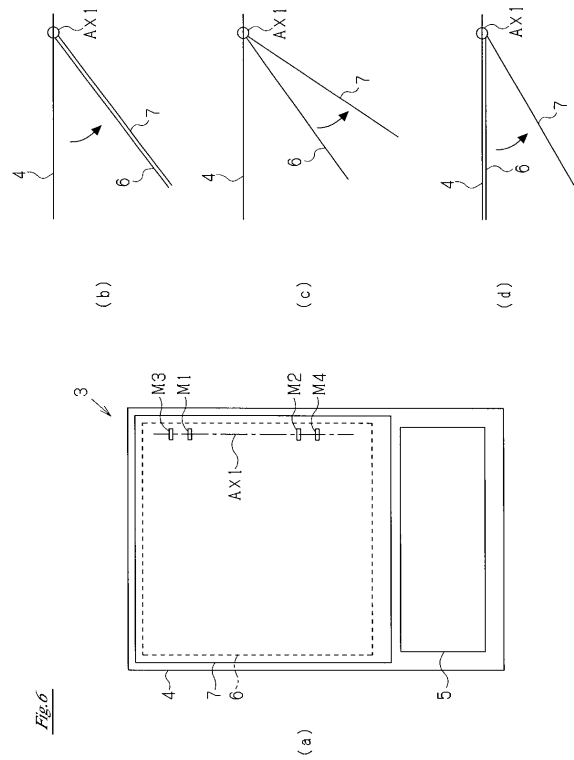
【図 4】



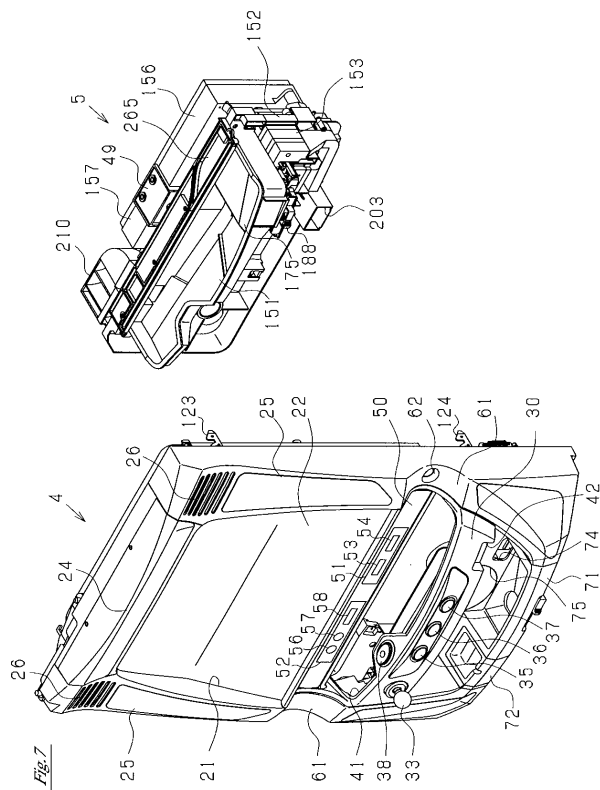
【 図 5 】



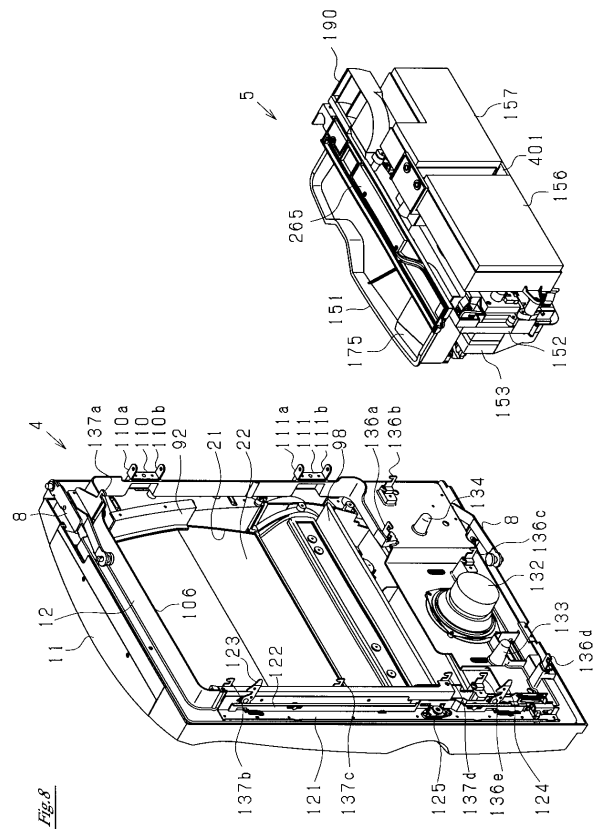
【 図 6 】



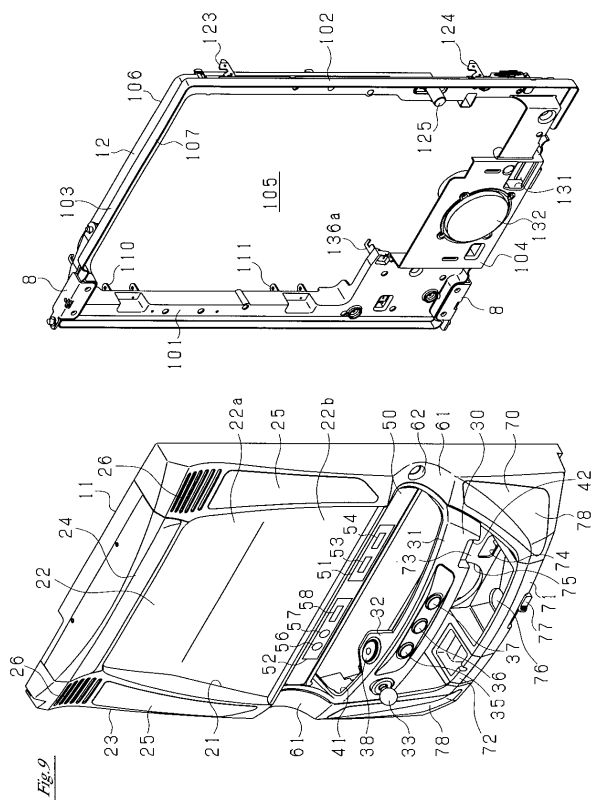
【 図 7 】



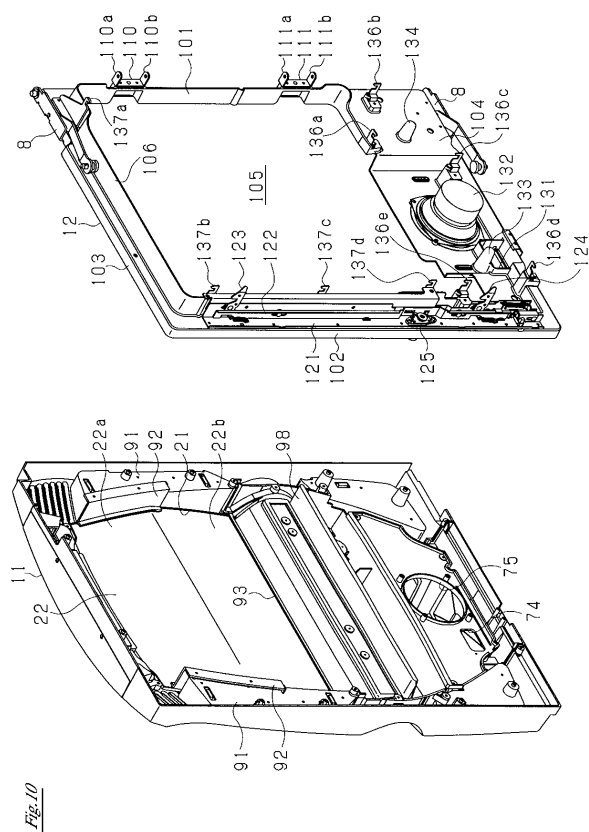
【 図 8 】



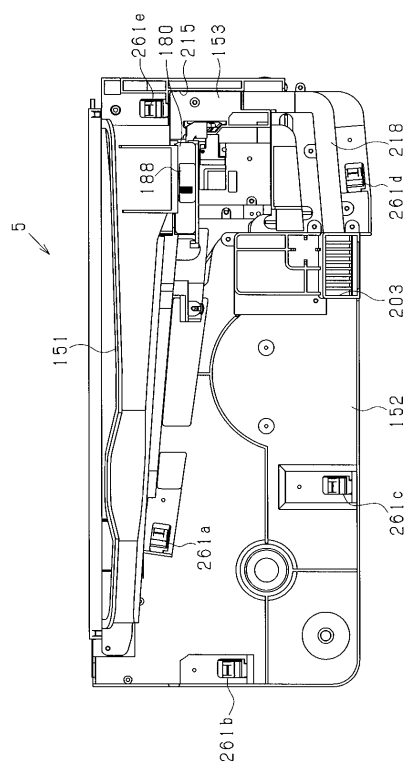
【 図 9 】



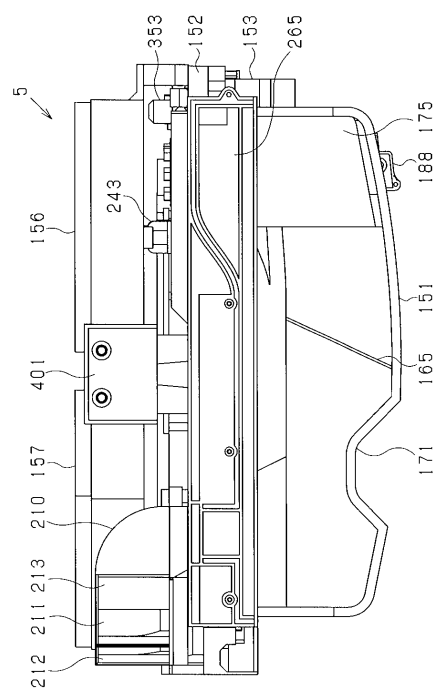
【 図 1 0 】



【 図 1 1 】



【 図 1 2 】



【図 13】

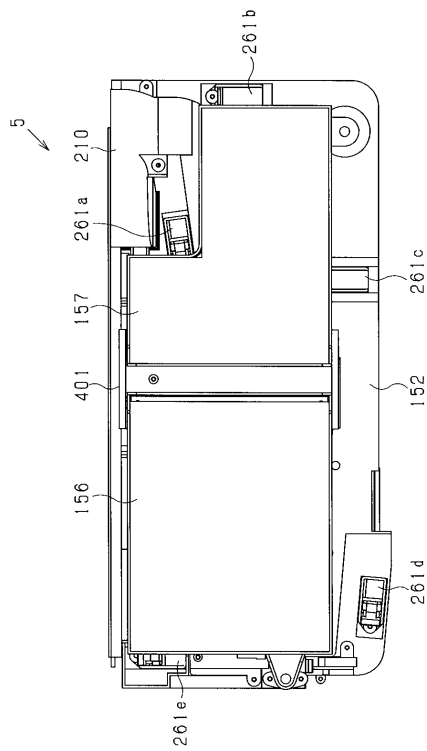


Fig. 13

【図 14】

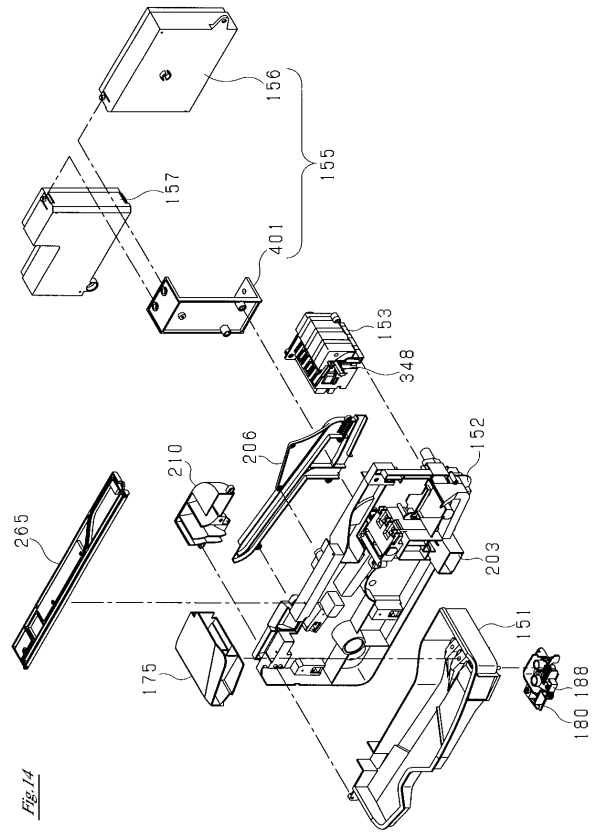


Fig. 14

【図 15】

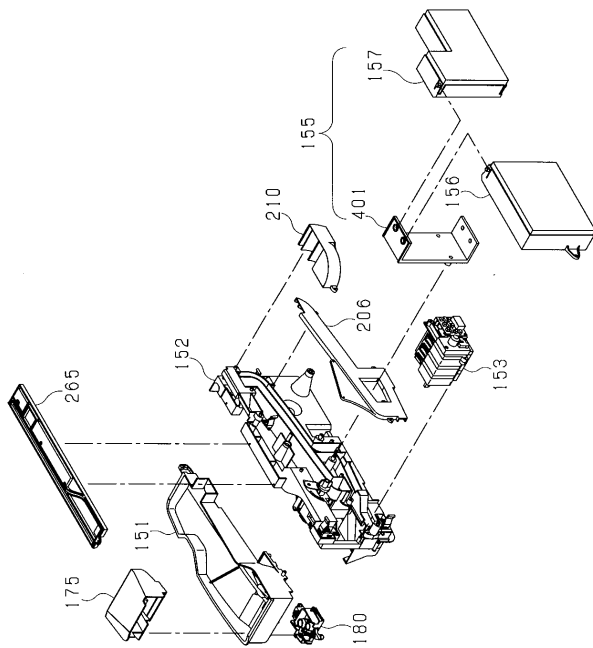
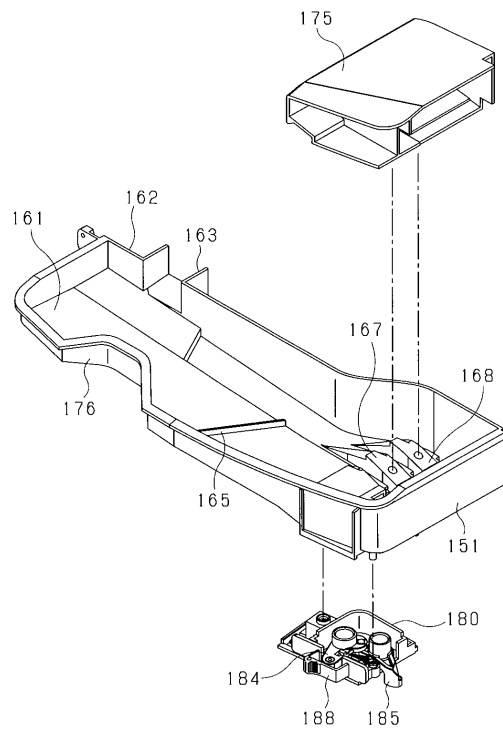


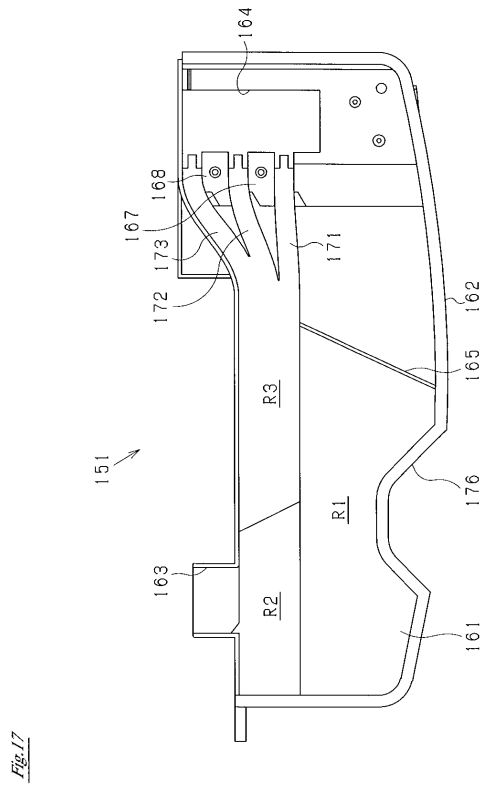
Fig. 15

【図 16】

Fig. 16

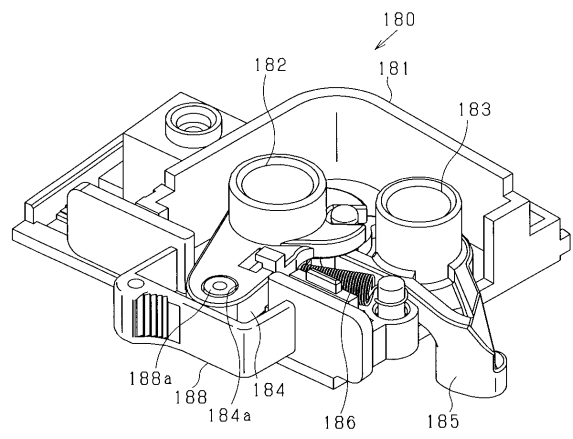


【図 17】



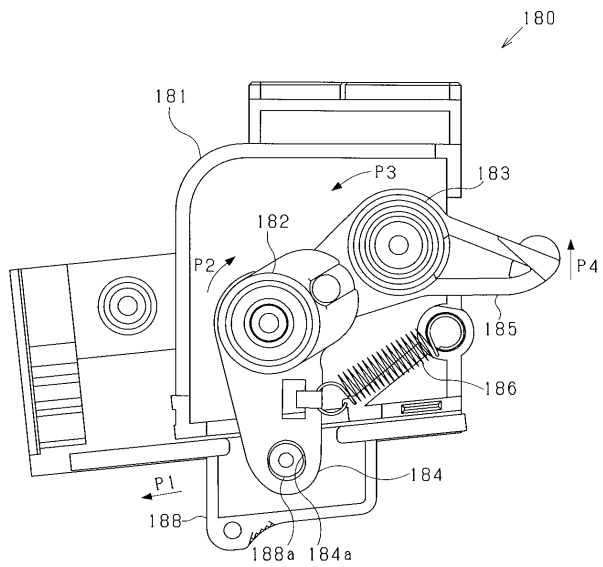
【図 18】

Fig. 18



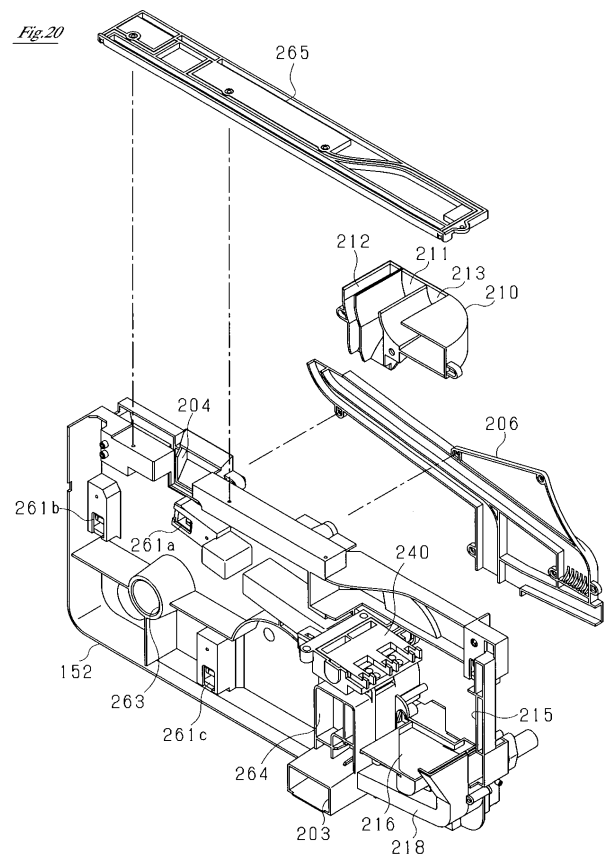
【図 19】

Fig. 19

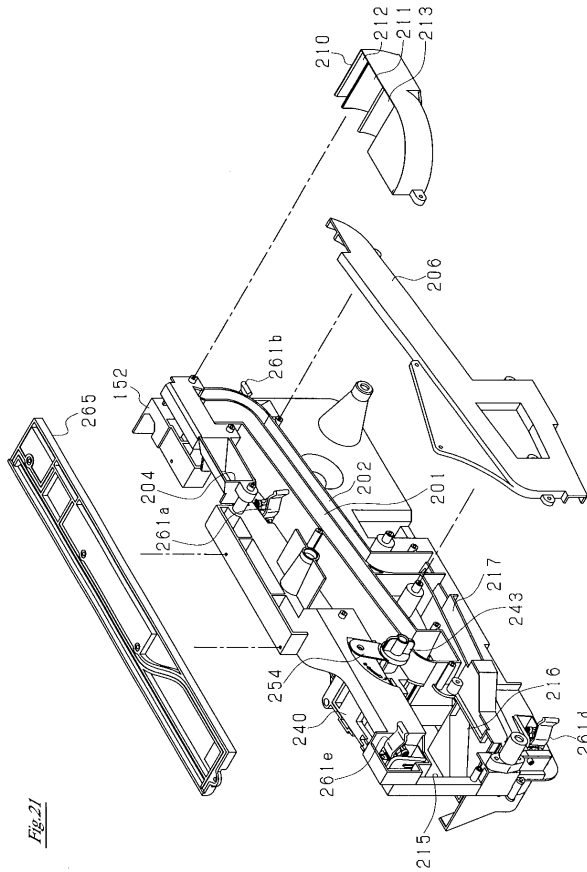


【図 20】

Fig. 20

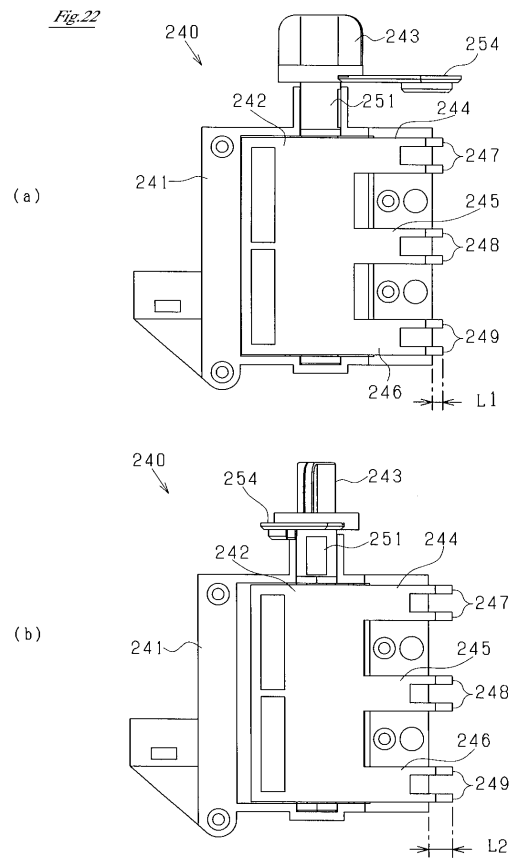


【図 2 1】

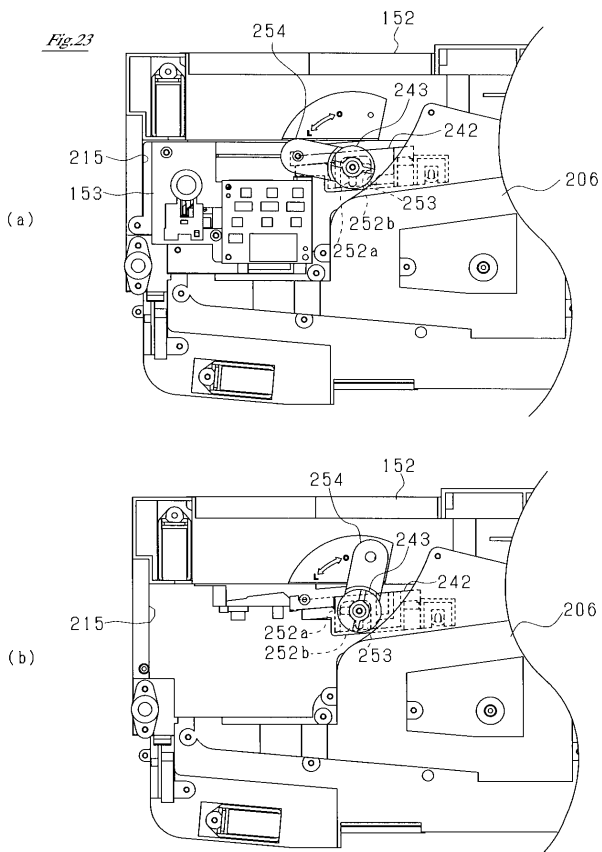


【図 2 2】

Fig. 22

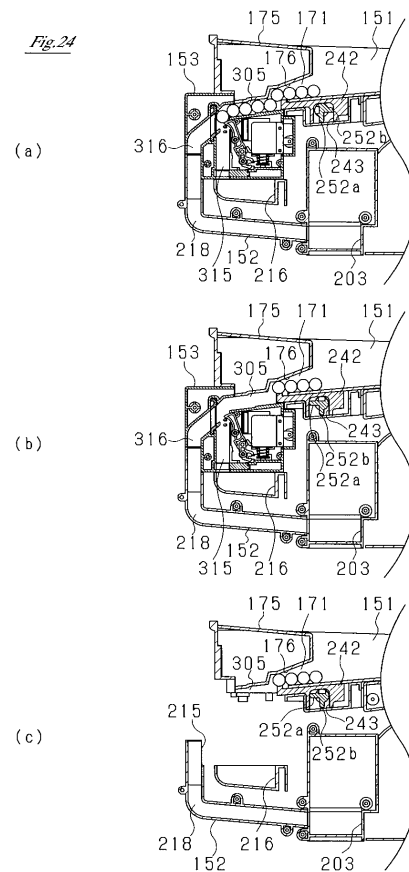


【図 2 3】



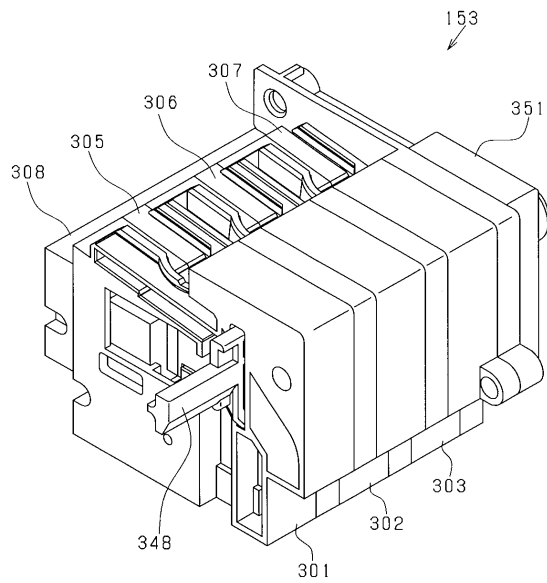
【図 2 4】

Fig. 24



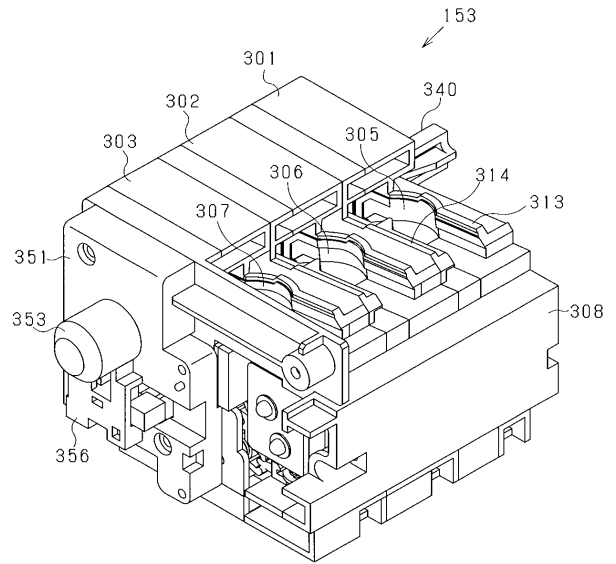
【図 25】

Fig.25



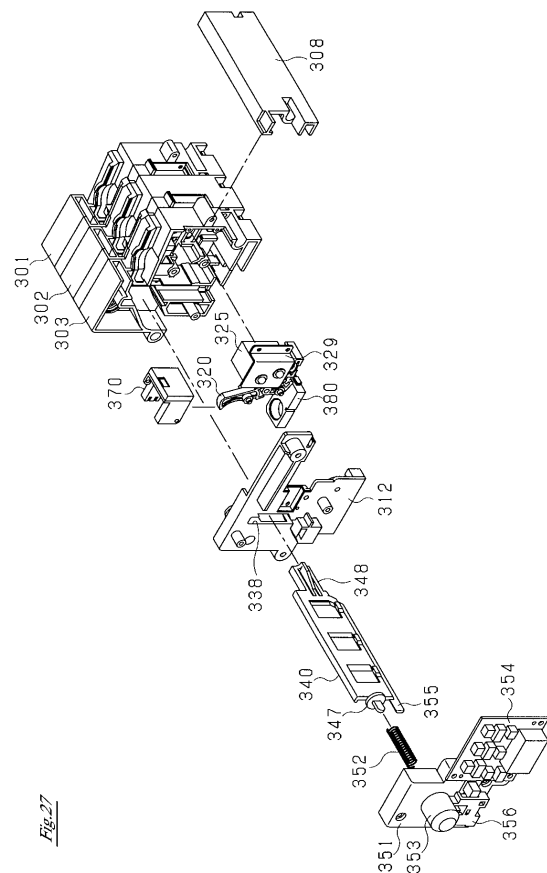
【図 26】

Fig.26



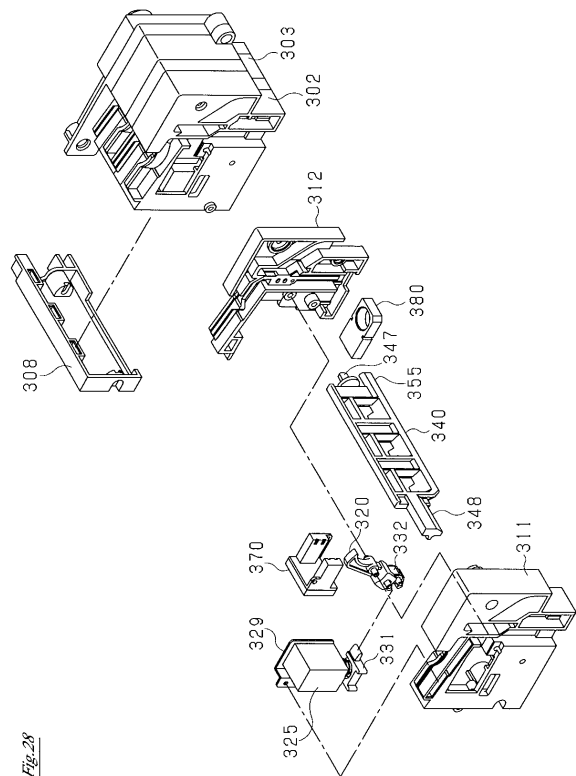
【図 27】

Fig.27

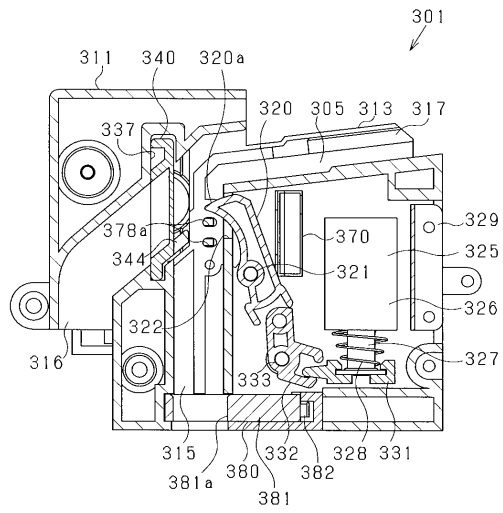


【図 28】

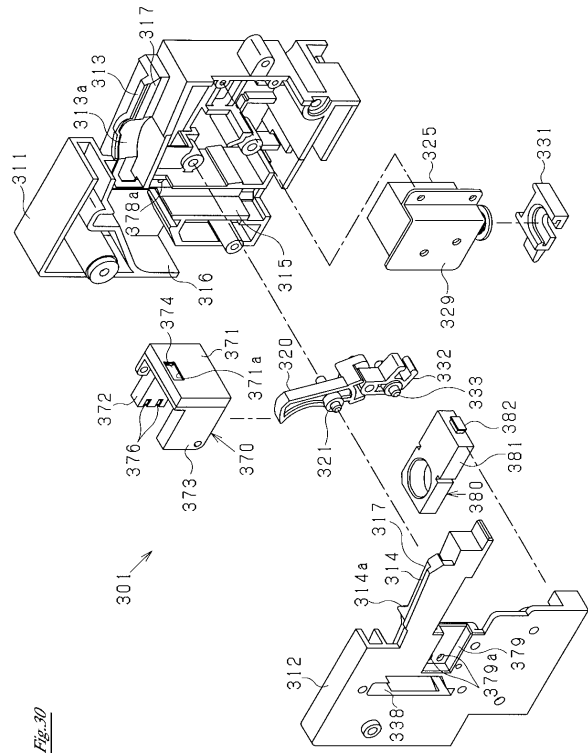
Fig.28



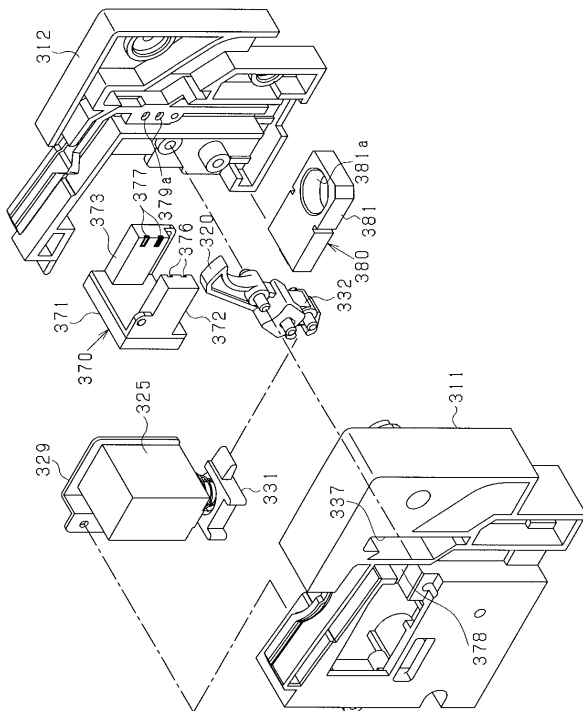
【図 29】

Fig.29

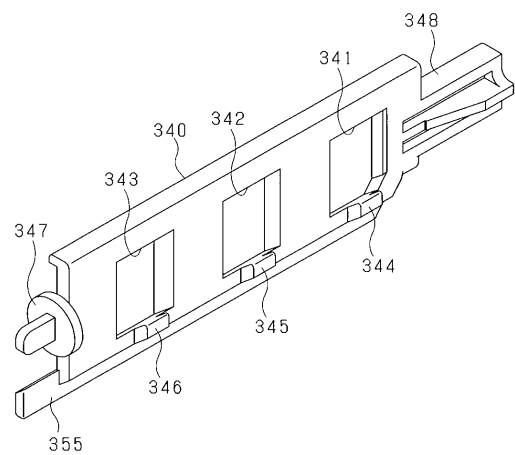
【図 30】

*Fig.30*

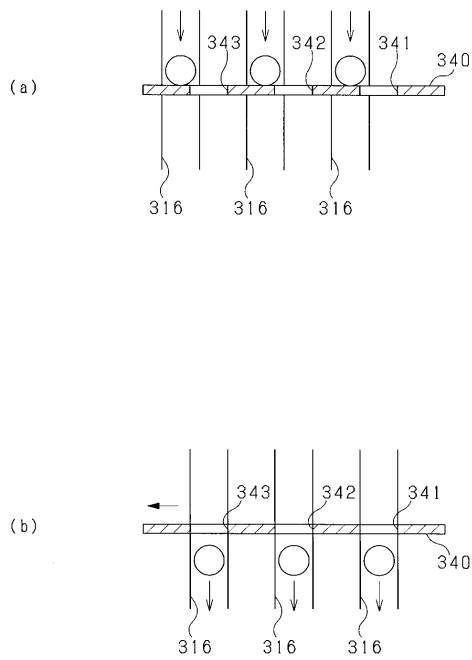
【図 31】

*Fig.31*

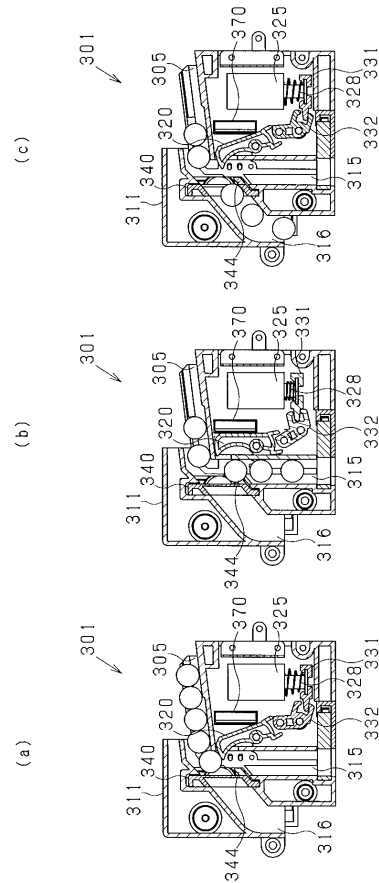
【図 32】

Fig.32

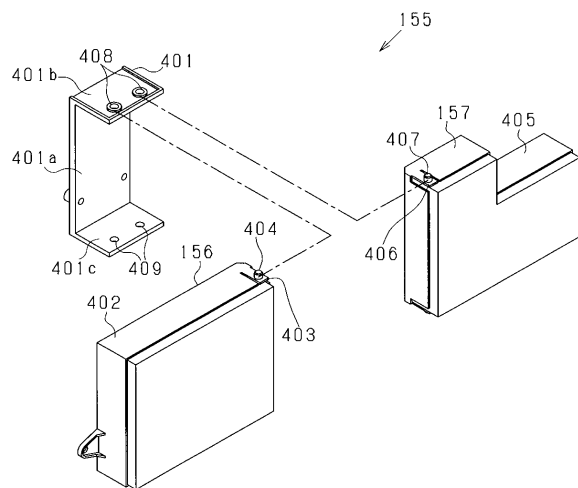
【図 33】

Fig.33

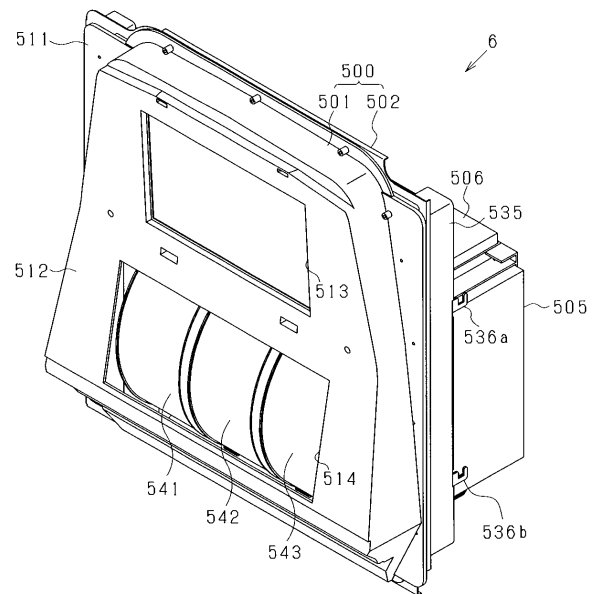
【図 34】

Fig.34

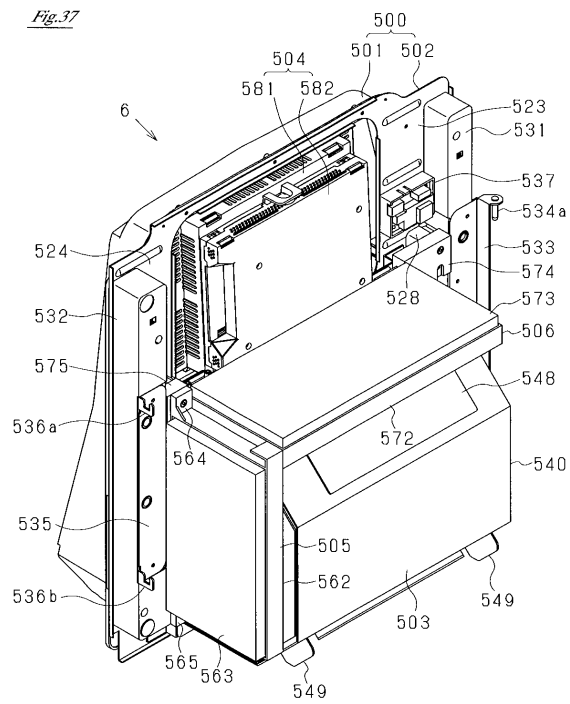
【図 35】

Fig.35

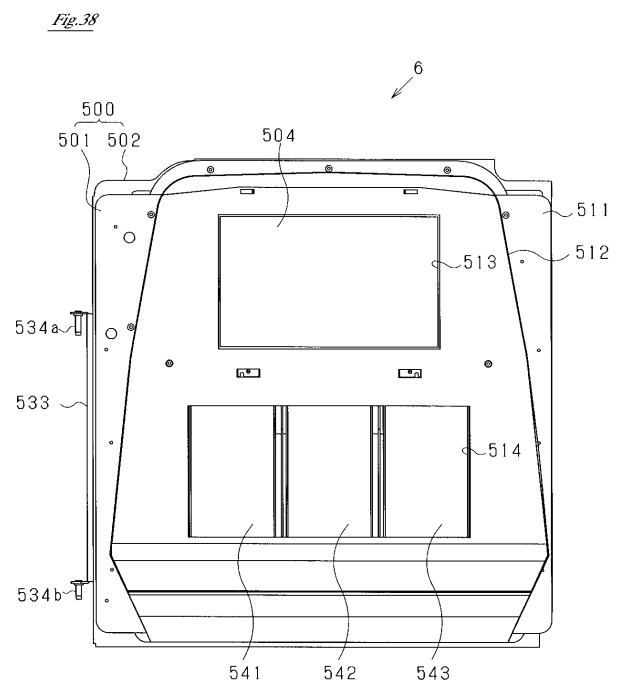
【図 36】

Fig.36

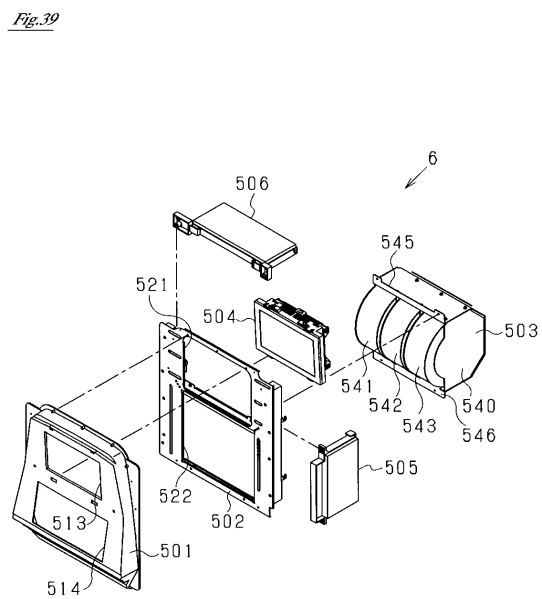
【図 37】



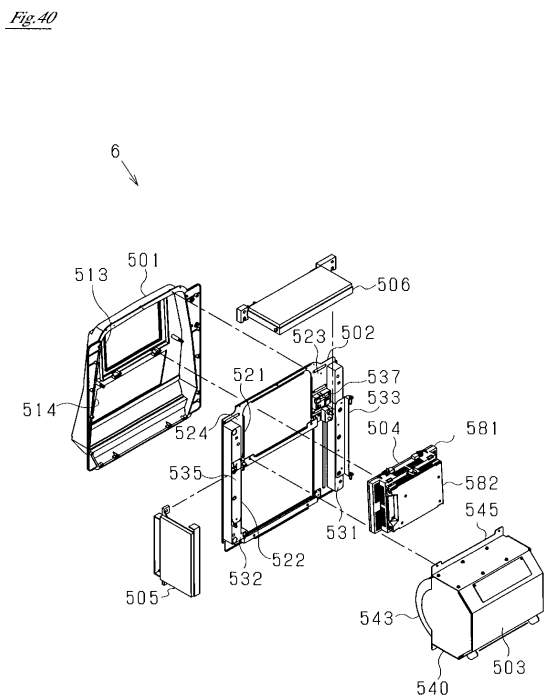
【図 38】



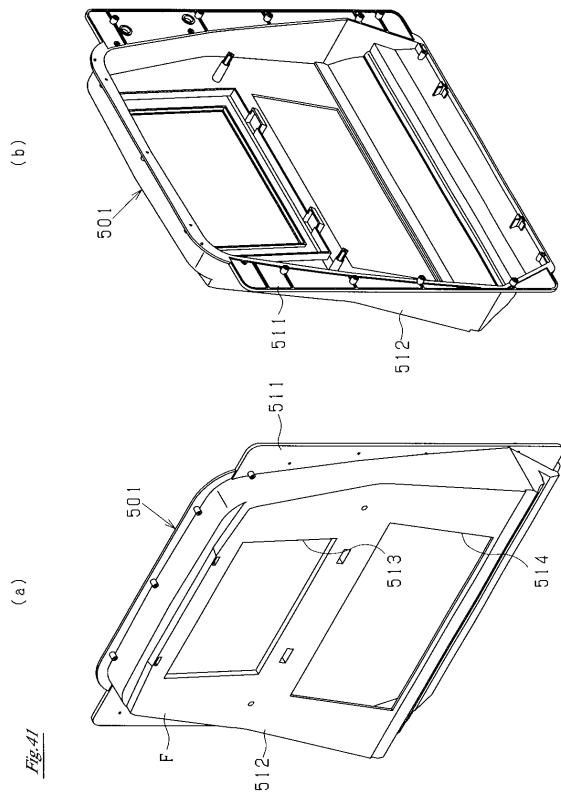
【図 39】



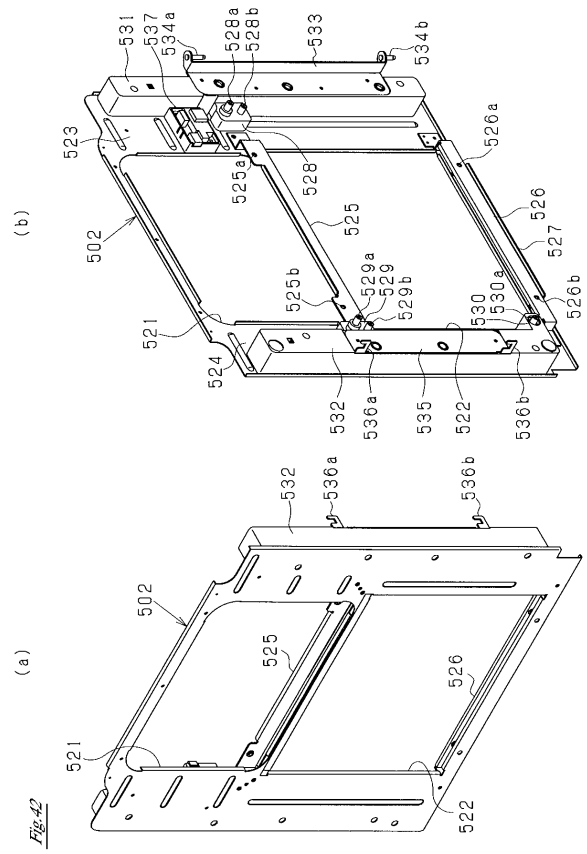
【図 40】



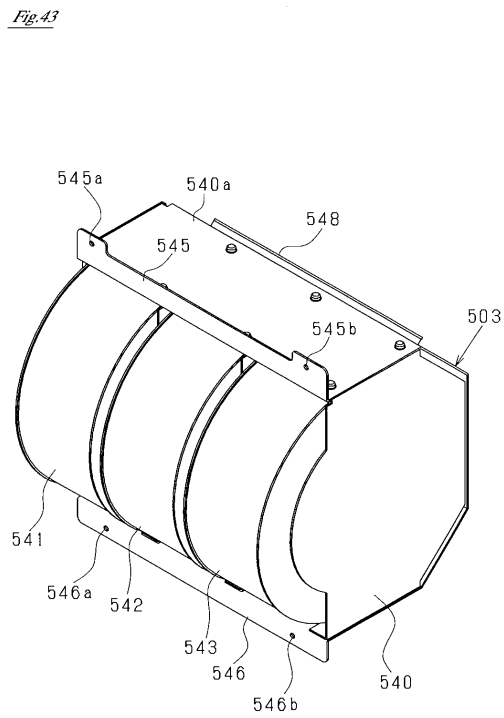
【図 4 1】



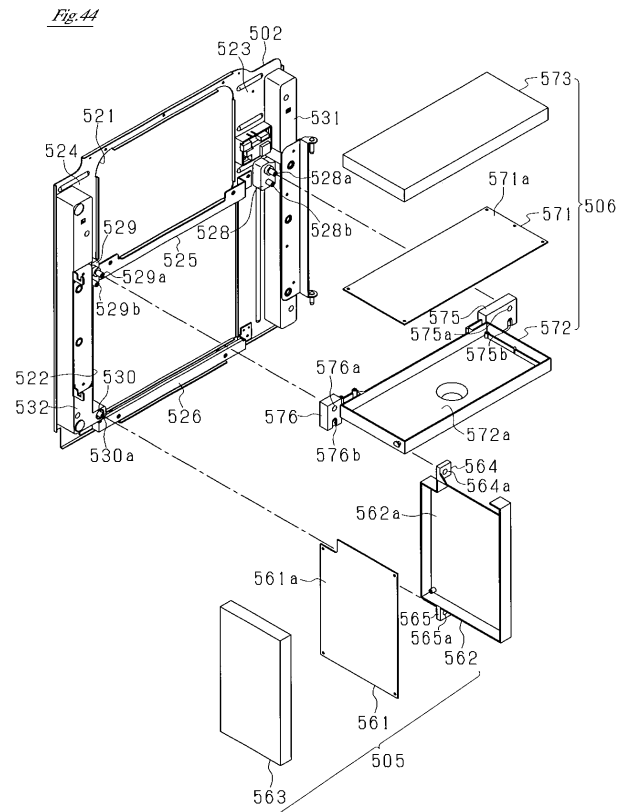
【図 4 2】



【図 4 3】

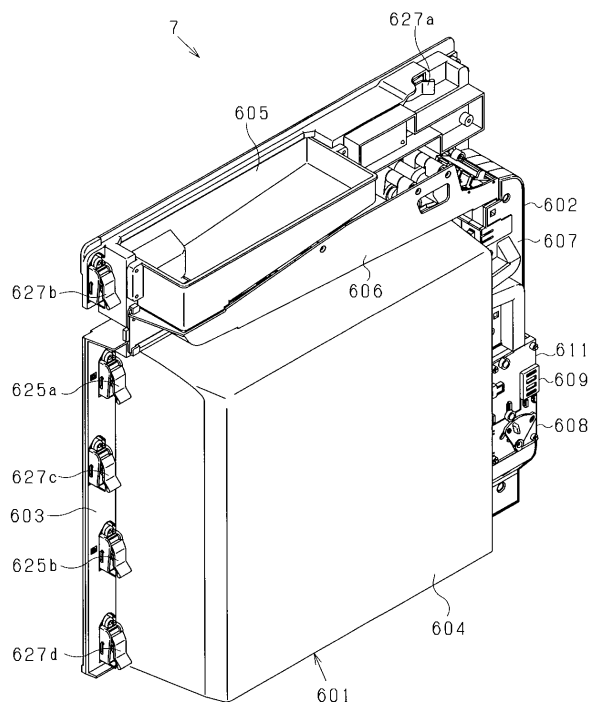


【図 4 4】



【 図 4 6 】

Fig. 46



【 図 4 8 】

